

# 職場の新生活運動

附 企業体における新生  
活運動実施の手引

新生活運動協会  
人口問題研究会

# 職場の新生活運動

附 企業体における新  
生活運動実施の手引

新生活運動協会  
人口問題研究会

## は し が き

この書は、財団法人人口問題研究会に委託して、同研究会が熱心に指導推進しつつある工場事業場の新生活運動の中から、一つのモデルケースとして日本鋼管川崎製鉄所の実例をとりあげてまとめたものである。いろいろな障害を創意と工夫と努力によつて、きりひらき、大きな成果をあげつつあるこの実例は多くの示唆をふくんでいる。そしてこの運動を押しすすめる上に、参考になる点が極めて多いと信じる。

附録「企業体における新生活運動実施の手引」は財団法人人口問題研究会の指導方針である。参考資料として掲載した。

昭和三十二年一月

財団法人 新生活運動協会

卷之六

一、

二、

三、

四、

五、

目次

新生活運動をはじめた動機	五
運動の準備	一〇
運動の趣旨の宣伝と普及	一六
運動の組織について	一八
家族計画実施指導員の巡回	二〇
第一の成果	二三
指導員の養成	三六

川崎市全地区の編成へ……………三

運動の進展にともなう調査の実態……………四

その後の運動の発展……………六

運動は第三段階の発展へ……………八

## 附 録

企業体における新生活運動実施の手引……………人口問題研究会 三

## 新生活運動をはじめた動機

昭和二十七年秋のある日、庄延工場に所属する工員のMさんは、傷ついた身を鋼管病院の一室に横たえていた。外は菊の季節にふさわしい青空が晴れわたつていているというのに、Mさんの命は昏迷の間をさまよつていたのである。折から見舞にかけつけた労務部長Kさんの耳にきこえるものは、『○○ちゃんの病気は……』と繰返えすMさんのウワ言だけであつた。

Mさんはこの製鉄所生えぬき、勤続十二年の熟練工である。酒ずきだが、気持のさつぱりした人で、『とうちゃん』のアダ名が示す如く、五人の子福者である。

この前日、末つ子の○○ちゃんが夕方からにわかにな熱し、子ぼんのうのMさんは徹夜で看病した。そして出勤後二時間にして機械に手をかまれてしまつたのである。

労務部長のKさんは、くらい面もちのまま帰社すると、腕をくんで考えにふけつた。今年十月だけをも一丸七件の産業事故が発生し、うち半数に近い九四名が欠勤をしている。もちろん、一万四千名を越す大世帯の製鉄所だ。ささいなケガまで根だやしにすることは、むづかしい。しかし、これらの事故の七割までが、機械の老朽や偶然の不幸——つまりやむ

を得ない原因によるのではなく、作業者自身の不安や疲労より生じ、このことはつきつめれば、主として家庭生活内部の不安定から発しているのではないか。もつと端的に言えば子供の病気があればムシヤクムシヤし、夫婦ゲンカがあればイライラし、職場の注意がどうしてもおろそかになろう。

働いている人たちの一日の生活は、勤務時間は休憩時間をいれても八時間であり、のこりの十六時間のほとんどは家庭ですごされている。この十六時間の家庭生活には、衣、食、住、休養、教育、文化、娯楽、衛生、育児等々のことがふくまれているではないか。

この家庭生活が明るくなり、元氣よく工場に送りだされれば、きつと産業事故も減るにちがいない。そうだ、『安全は家庭から』だ。家庭における生活のすべては、明日の労働力再生産の電源であり、その家庭生活がどう過されるかによつて、明日の生産に大きく影響される。いやいや、工場の生産能率の問題ばかりではない。人間の『いのち』の問題だ。

Kさんの瞑想はさらにつづく。いままでの勤労厚生管理のやり方にしてもそうだ。働く人たちの在社時間の管理ということが中心であつたが、これではほんとうの親切的な管理とはいえない。従業員の退社後の家庭生活にまで、あたたかい手をさしのべるべきだ。



厚生福利の面を考えてみよう。いままでは入手困難の品とか、安い品をあつせんすることがその業務であつた。

そうではない、安くてよい品を市中で買う方法、そのみわけ方を教える。予算生活、調理法、栄養価などの相談相手になつてやるように仕事をかえてゆく。それこそ厚生の名にふさわしいのではあるまいか。

また、働く人たちの一ヶ月の収入は、だいたい一定している。その一定した金額を、いかにより有効につかうかは、いつに主婦の家庭経済のきりもりの手腕にかかつている。一万円の金を一万二千円につかうか、八千円につかうかは、家庭生活への影響が大きい。この家庭の立役者たる主婦の向上をはかることが、幸福な明るい家庭をつくり、明るい社会をつくり、良人にやすんじて生産にうちこめるようにする泉となる。

そうだ、厚生業務の手を家庭にのぼそう。主婦を中心に、教養をたかめ、生活の合理化をすすめ、健康をますなどのよき指導と相談相手となる運動だ。スジ金として貫ぬく目標は、個人の幸福をとおしてお互いに協力しあい、結局は明るい国づくりの基礎となることだ。新生活運動——この言葉をいうはやさしい。また、やつてみても、目にみえた効果は期待でき

まい。しかし、やらねばならぬ問題だ。十年計画で、覚悟を新たにして、つきすすんでみよう……。

以上のようなKさんの考え方、厚生福利の場を、働くひとたちの日々の生活の全面にひろげてすすめようとする考え方が、日本鋼管・川崎製鉄所における新生活運動発足の動機となつた。この考え方にたつ新しい仕事を、ここでは『新生活運動』とよんで活発に展開している。

いつてみれば厚生業務の革命である。いやしくも新生活と名づける以上、この運動は、単に物質面、消費面の改善にとどまらず、精神、生産面につながる社会的、総合的、生活態度のきりかえを目的として、はじめてその意味が生きてくる。

家庭経済一つをとりあげても、一定の収入によつて生活するものにとつて、いちばん必要なのは、その予算生活である。家庭の設計という本質を無視して、いかに生活改善を叫びたてても、やけ石に水となるおそれがある。

そのためには、家庭を基本に考え、家庭の幸福 ↓ 家庭生活の向上 ↓ 職場の明朗化とい

う方面の運動がその中軸となるべきはずである。ここまで、ひとりひとりの生活を掘りさげて、具体的に考えると、積極的な家族計画の実行ということが、切実な問題となってくる。

夫婦の間に、三人子供を生むのも、八人の子供を生むのも、また全然生まないのも、個人の自由意志の問題であるが、かわいい子供たちに親としての責任をはたし、子供たちと家庭生活の幸福を考え、あるいは日本の将来を考えれば、そこに当然良識ある家族計画の問題がうかがいがつてくる。言葉をかえれば、家族計画を足がかりとする運動こそ、根本をえぐつた、人とものをかねそなえた自主的、科学的な方向といえよう。合理的に家庭生活をきずきあげ、心身ともに健康で、すぐれた能力をもつ子供たちを育て、とくに家庭主婦の負担を軽くし、その人格を尊重することは、社会道徳の線につながる。

新生活運動は家族計画にかぎつたことではないが、まず焦点を家庭の計画と設計におけば、そのしつかりした地盤が得られる。受胎調節は手段であり、方法である。これをおして、家族計画という『考え方』を養い、さらにこの考え方なり、理念なりを發展させて、職域が団結すれば、新生活のいくべき道は、洋々とひらけてくる。

Kさんはさつそく、関係の人たちと相談した。これに対し、奇異の眼でみる人、はじめからサジを投げる人、またこの仕事を家庭にまで延長するのは、かえつて強制越権になるのではないかと危ぶむ人もあつた。しかし、身近かに子供の将来、日本の将来を考えていた人たちからは、予想以上の賛成と協力を得た。

ただし、ことはなつとくずくで運ばなくてはならない。あらゆる人の意見をきき、またあらゆる資料を集めて、充分に計画を検討した上でとりかかろう。

## 運動の準備

さて、この新生活運動は、同二十七年秋からさつそく、厚生課を中心に計画・着手された。

まず第一の手がかりとして、厚生省人口問題研究所から家族計画の現状についての資料の提供をうけ、これと従業員の資料とを比較してみた。おどろくべきことには、従業員の出産状況は、昭和二十五年、二十六年、二十七年度において、全国平均の約二倍の高率であつた。

これは、戦後四、二〇〇名であつた従業員数が、昭和二十七年には一四、三〇〇名に増加しており、そのほとんどが、二十五歳から三十五歳までの独身者または妻帯者で、年間一、四〇〇名以上の子供を生んでいるとともに七〇〇名内外の新婚世帯がこれに加わりつつあるとの特殊事情にもよるが、このような出生率のたかい状況は、ここで展開された新生活運動の目標として、家族計画に重点をおくことが、当然大きくとりあげられるわけとなつた。

一方、財団法人人口問題研究会理事長、経博永井亨氏らの来訪をうけ、製鉄所側の幹部当局者と懇談し、家族計画運動をここでの新生活運動の第一歩としておしすすめることについて、いろいろ指導をうけ、意見の交換もした。

その結果、つぎのような新生活運動要領と実施項目を定め、その後四年間にわたり、社内新聞その他あらゆる手段を用いて、全家族に徹底させている。

### 新生活運動要領

(一) 新生活運動は、日夜生産に従事する良人の留守を守る家庭婦人が、誇りをもつて、幸福な家庭と、明るい秩序正しい社会を築くためにいしづえとなる運動です。

(二) 新生活運動は、隣人愛と相互扶助をもととして、互いに教養をたかめ、文化的、社会

的、地位を高めていく運動です。

(三) 新生活運動は、日本鋼管、川崎製鉄所従業員家族の希望により、厚生課を世話役として、進めていく運動です。

### 新生活運動実施項目

- (一) 教養に関すること
- (二) 保健衛生に関すること
- (三) 生活の合理化に関すること
- (四) 家族計画の普及に関すること
- (五) 育児と子供の教育に関すること
- (六) 社会道德に関すること
- (七) 家族の慰安に関すること

次に、この運動の第一歩として家族計画法の普及指導を行うにさきだち、すでにおこなわ

れている受胎調節の実態を基礎的にみきわめ、あるいはまだ実行にいたらない家庭の実行をはばむ事情を察知し、こんどの宣伝指導の方策をたてるとともに、指導後毎年の成果と比較すべき資料を得るため、基礎調査を行うことになり、第一年度のモデル地区たる八〇〇世帯の社宅区域を対象に、調査票を配布した。

その結果表は約三〇項目にのぼるが、そのうち主なものをひろつてみると、

#### 1 主婦は追いつめられている

受胎調節の実行率は約四割で、同年の厚生省調査における全国の二八％に比し、一割以上うわまわつているが、たとえば子供数別にいつても、内容に問題がある。すなわち、子供数三人の家庭、及び子供数六人以上の家庭が最も率がたかい。このような人数のところは山がみられることは、ちようど二、三人を生んで、適当な数になつてから腰をあげる人、および五、六人生んでしまつて、どうにもやりきれなくなつて実行をはじめた人とが、たくさんあることを物語る。本来ならば、子供数が一、二人のうちに合理的に実行をはじめべきで、このような数になつて追いつめられることは望ましくない。なお無子家庭が約一割五分あるが（全数七一六名のうち八八名）、子供がないのにすでに実行している一三、六％の人は、い

現存子供数別実行率

子供数	調査数	受胎調節 実行率
0	88	13.6%
1	91	30.8
2	155	44.5
3	176	50.0
4	103	39.8
5	73	45.2
6人以上	28	46.4
不明	2	—
計	716	39.7

味している。

## 2 人口妊娠中絶が抜け穴となつている

がんらい、人工妊娠中絶(だたい)は、母体の保護になるどころか、かえつていろいろの合併症をおこし、また人道的にもすでに生命のある胎児を、陽のあたらぬ場所にほうむりさるわけであるから、はなはだ好ましくない。

ところが、調査家庭の二割が、この人工妊娠中絶を経験し、しかも、受胎調節実行者の方が、六倍のたかさのほつている。つまり、調節の技術が未熟のため、失敗の抜け穴を中絶

わゆる計画出産という合理的な考えをもつていけるわけ、これはこれとして大いに心強いが、一方、望んでも子供のできない人もこの八八名にふくまれていけるわけで、新生活という積極的な運動のたてまえからは、子供を少くしたい人には大いに実行を指導するとともに、子供がなくてさびしがつていける人には、逆に子供のできるような指導をすべきことを意



妊娠中の健康状態

障 害	実 数	%
なし	184	30.9
妊娠 かつ し	74	12.5
つ わ り	322	54.1
そ の 他	15	2.5
計	595	100.0

妊娠出産に対する自信

自 信	実 数	%
自信 あり	172	35.2
少し 不安	193	39.5
全く 自信なし	124	25.3
計	489	100.0

にたよつてゐる。調節と中絶は、まったく違う。中絶を少くするためにも、受胎調節の普及が望ましいのである。

3 主婦は妊娠を恐れている

調査家庭のうち、七割は妊娠障害に悩み、六割五分はこんごの妊娠出産に対する自信をうしなつてゐる。いわゆる妊娠ノイローゼがここにおこり、だからこそ、安直な逃げ道を中絶に求めるようになる。

4 主婦の知識が乏しいため、このよ  
うな結果をまねいている。

たとえば、男性の用いる器具（コンドーム）が、実行法の第一位をしめ、女性の用いる器具、薬品はごく少い。つまり、女性側の知識が低いために、不確実な方法に頼つてゐるのである。

更に不実行者の知識程度をみよう。そ

受胎調節知識の程度

程 度	調査数	%
全然知らない	52	19.5
少し知っている	126	47.4
一通り知っている	56	21.1
実行出来る程度知っている	32	12.0
計	266	100.0

ことに、改めて自信をかためたのである。

### 運動の趣旨の宣伝と普及

いかに立派で役に立つ運動だといつても、とつぜん、主婦たちがしらないうちにはじまつたら、びつくりされるし、誤解も招くだろう。

関係者は集つて、相談のうえ、従来社内新聞として月二回発行されていた『熱鉄』に新し

の九割までが、知識のないために、指導の機会が与えられていないために、心ならずも実行できないのである。

以上の各結果をしつて、当局者はいまさらのように、家族計画運動を重点とする新生活運動の必要性を痛感した。この運動はおしつけではない。心から望まれているのだと。そして、指導の方法さえ、なつとくづくで、かゆいところに手のとどくようなやり方さえすれば、必ず喜ばれる。

新しい時代に ふさわしい生活の設計をいたしましょう (日本鋼管川崎製鉄一九五二・一)

(熱鉄だより No.28)



① 子供は六人・卵は二つ  
これがあべこべだつたら  
よいのにネ……



② 明日は大事な仕事があるんだぞ  
コリヤタマラン……



③ 「ハイおみやげ」  
「二人とも今日よく勉強しました」



④ 「ホントにお宅はうらやましいわ、私はもう六人の子供でクタクタよ」

く『家庭版』をもうけ、主婦向きの編集をして、各家庭に直送した。この運動の趣旨を毎回説明するのみならず、たとえば製鉄所内の解説、会社のサービス施設案内、映画随想というぐあいに、ひろい知識を通して、生活上の希望をもちたてようというわけである。

一方、ダンナさま方にも理解協力して戴くため、毎月の給料袋に（一七頁）このようなマシガをいれ、もれなく認識を呼び起すようにしたこともある。

## 運動の組織について

新生活運動をすすめていくうえに、組織をつくることは、きわめて大切である。組織が完全であれば、運動の半分は成功したといつてもいいだろう。

そのため、組織については、できるだけ慎重に計画をすすめた。

まず、対象区域の設定については、集団社宅地区をモデル・ケースに選び、問題点をひろいつつ運営を反省改善しながら、その規模を拡大することにした。すなわち、第一段階として社宅の一、〇〇〇世帯を、第二段階として社宅以外の川崎市内在住従業員世帯五、〇〇〇を、第三段階として京浜地区居住従業員世帯三、〇〇〇をと、次第に対象を拡大するやり方

である。

相談がこうきまると、翌日からは厚生課長以下全員が社宅地区にとびだして、毎日毎日少人数の懇談会を開いて歩いた。会合が夜ひらかれることもあり、一人も集らず待ちぼうけをくわされることもあつた。しかし、単なる一片のアイサツ状ではなく、直接地区に乗りだす熱意は、主婦たちの胸をうつた。そして、主婦側の意見にもとづいて、その希望に応ずるといふやり方は、主婦たちにひそかな誇りをもたせた。

この懇談会に主婦たちからだされた意見は、受胎調節指導ばかりでなく、寮、社宅設備の改善、生活の合理化、教養、保健、衛生など生活に直結してすぐ役立つこと、また生活の内容を豊かにしていこうとするもので、これらは当局の計画に対しても非常に参考になつた。

主婦たちのうちには、中年を過ぎている人、不妊に悩む人もいた。そして、その人たちとも話しあいをすることにより、グループから仲間はずれにするというひがみをなくした。すべての人が、この運動が家族計画のみで終るものではなく、家族計画はその第一歩にすぎないことを自覚しはじめた。

グループのまとめ方は、五世帯につき一人の割合で委員（主婦の世話役）を選出し、事務

当局及び指導員との連絡、グループの世話を受けもつてもろうわけである。この委員選出も懇談会において天下りの指名をさけ、自主的に推せんしてもらつた。

昭和二十八年四月四日、新生活運動の正式の発会式が行われた。話しあいにもとづいて、普段着のままに集る委員は一五二名、九九%の出席率で、しかも定刻二分後には開会というまことにスムーズなすべりだしであつた。そして、公式の席になれない主婦たちも、各社宅代表正副二名の推せんの後、映画と落語に顔をほころばせ、計量コップをお土産に、和気あいあいのうちに幕をとじ、ここにこの運動の第一歩がふみだされた。

### 家族計画実施指導員の巡回

まず手はじめに、婦人の指導員による地区巡回指導を行うことになり、厚生省人口問題研究所のあつせんにより、一〇名の指導員が採用された。

一般に主婦というものは出産につぐ出産に、心身ともにあえぎつつおしめの洗濯やミルク代の心配にその日その日を送り、内心は家族計画に熱意をもちながら、自ら積極的にでかけていつて専門家の教えをこうだけのフンギリがつかない。

また市内の講演会やパンフレットで、耳だけの知識をうけても、身についた技術、個々の家庭にびつたりあつた方法は覚えられないものである。

それゆえ、巡回指導員が、たんねんに一軒一軒を指導して歩くことこそ、親切であり、能率は少ないながら、かえつて着実な結果となる。自分の家で指導員と二人きりで話しあえば、気持もほぐれるし、器具薬品もそのときにうければ、市内で買うような恥かしさもおぼえず、だいいち会社がまとめて購入した品だけに、実費が安くつく。いわんや薬のなくなつたころには、ご用スキの如く、ときどきとどけてくれるにおいておやである。

指導員は決して実行の無理じいはしない。日常生活のグチのコボシ口も、きき上手に引受け、また、昔とつたきねづかで赤ちゃんの沐浴も気がするにサービスする。多くの主婦のなかには、子供が欲しいのに、できなくてさびしがつている人もいるが、この運動の精神からは、逆に妊娠できるように相談にのることもある。そして、訪問のたびに、計画的、合理的な生活のあり方を説明する。

さらに、五世帯一グループにして、いわば隣組式に集会を設け、模型、掛図、スライドなどをを用いて、立体的、視覚的に基礎知識をつたえ、隣接グループとの合同集会も、委員たち

の定期役員会も活潑にもりたて、建設的な意見交換の場を与える。話題も受胎調節法にかぎらない。子供の栄養の話もするし、ときには中年主婦むきに、更年期の障害も解説する。

だからこそ、この運動をとおして、同じ職場の従業員家庭の親睦と理解の気運が生れてくるようになった。いままで銭湯で会つても口をきかなかつた主婦同士が、集会いらい親しくなつて、お互いの生活を研究しあう風景もみられるようになったし、一昨年夏のストライキに際しては、この指導員だけがピケットラインに笑顔でむかえいられたという実話にも、この運動の無形の効果が、端的に示されている。

## 第一の成果

翌年春、モデル地区一年間の成績を調査して、およそ次のような状態が判明した。

### 1 主婦は目ざめつつある

指導以前の家族計画実行率三九、七%に比して、一年後には、それを一割五分を上廻る五六、〇%の飛躍ぶりを示し、これを厚生省全国調査における、一年間三%づつの上昇とくらべるとき、実に五年ぶんを一きよに追越したことになる。



指導の有無別実行率

指 導	調査数	実行率
有	279	82.1%
無	156	38.5
不明	94	7.4
計	529	56.0

さらに、これを指導をうけた人と指導をうけない人とにわけて考えると、一層はつきりする。指導をうけない人（ただし、これは後に述べる如く、指導を拒否したのではなく、指導員の手が足りないため、待たされている）の実行率三八・五％は、一年前の実行率とほぼ一致しているのに、一たん指導をうけた人の実行率は、八二・一％の高率になつてゐる。ゆゑに、巡回指導により実行率が二倍以上になつてゐるのである。パンフレットや講演会などによる上すべりの普及運動にくらべ、この個人の家庭を巡回する具体的指導が、いかに大切であるかを示してゐるではないか。

## 2 主婦の明るい希望の灯をともし

成果はただ家族計画のみにかぎらない。個別指導と併行して、はじめは五人づつ、後には、二〇人、三〇人と合同して、基礎教育座談会の場をつくるに従い、いままで家に引きこもりがちな主婦たちが、集つてなにかを学ぶフインキをした。最初のうちは、井戸端会議に終ることもあり、勝手に発言しあつて集會が混乱することもあつた。しかし、だんだん楽しい集いの喜び、知識

を吸収する嬉しさを感ずるようになった。

ある社宅における一例をあげよう。S夫人は生活改善に進歩的な考えをもち、この運動のはじまる前から、新年の門松は虚礼なりとして、その廃止を断行した。まわりの奥さんたちは、『たかが三十円の松』を買わないあの人はケチだと、カゲロをささやいた。とかく集団住宅は口のうるさいものである。そのお正月、近所隣りの松飾りを眺めながら、夫人は肩身のせまい思いをした。ところが、この運動がはじまり、座談会が活ぱつになると、翌年の暮に虚礼廃止の議題がとりあげられ、いの一番にこの門松を全廃する申し合わせがまとまつた。こんどはグループ二〇名が全部参加したので、カゲロはでなかつた。S夫人はかえつて前年の進歩的態度がほめられ、社内新聞の家族版にも彼女の名が出て、大いに面目をほどこしたのである。余談であるが、この評判は翌年には全地区に波及して、門松、しめ飾りを廃止するグループが続出し、あるトビ職など、商売が上つたりになると、文句をいいにきた一幕が演ぜられるほどにひろがった。

精神面における明朗化もいちじるしい。この調査のアンケートに記されたある地区のT夫人の感想をきこう——『わたしは、主人が東北地方の出身なので、同じ村からこの川崎市に

嫁ぎました。はじめ鶴見の借間に二年、この社宅にまいりましてから満三年になります。田舎そだちのため、立派な奥さん方とおつきあいするのがなんだか恐くて、人目をさけて家の中にもつておりました。昨年からの運動がはじまり、グループの座談会にさそわれました。はじめは委員さんの顔をつぶしてはならないと存じ、お義理で出席しておりましたが、近よりにくいと思つていた奥さんたちも、気さくな方ばかりで、こんなことなら、もつと前から友だちになればよいと後悔しています。先週の会合では、指名されて故郷の漬けもの塩かげんのコツを伝授して、みなさんからほめられました。わたしが人さまにものを教えて喜ばれるなんて。その晩は嬉しくて眠れなかつたくらいです。』

集団的な運動の効果は、かくの如くいちじるしい。社内新聞家庭版をとおして、また人づての話をとおして、この運動は社宅地区以外の反響をよび、社宅の指導ばかりでなく、われわれの地域にも拡大してくれ、その場合の順序はここを最先に……という声が、市内各所から起りはじめたのである。

## 指導員の養成

昭和二十八年四月から翌二十九年三月までに、六社宅地区で約五七〇世帯の基礎教育と、約三七〇名の個人面接指導を行ったが、一回に多くて二〇名単位の集会と、一日平均五、六名程度の個人指導で、指導の人手がとても足りない。なおその合間に、座談会も開かなくてはならないし、二十九年からは、要望に応じて、川崎市在住従業員全世帯の指導にのりださなければならぬのである。

そこで至急に指導員の増員を行うことを決め、当局はその準備に、嬉しい悲鳴をあげはじめた。というのは、増員を決定したからといって簡単に人がもとめられないからである。

現代の家族計画指導は、単に医学的な技術のみの問題でなく、指導員一人一人が、強い信念をもち、ひろい意味の人間性と知識をもつ人でなければならぬ。

そこで、製鉄所側の主催、人口問題研究会後援のもとに、半月間の指導員養成講習会を開くことにした。まず、東京都の助産婦会より推せんをうけた優秀な助産婦約五〇名を講座に参加させ、ひろい教育をした後、このなかより適格者を選ぼうというわけである。

講義内容は、家族計画の理念や、技術の腕をみがくことはもちろんのこと少く生んでよくそだてる乳幼児哺育の問題あり、性教育の問題あり、あらゆる角度より、社会生活の基礎知識と視野を与えるものであつた。その日程は次の通り。(次頁参照)

この受講者のうち二十名を採用し、さらに実務訓練をへて後、地区を受けもたせることになつた。

## 川崎市全地区の編成へ

川崎全市に在住する従業員世帯数は、調査の結果、五、三六六世帯とわかつた。それゆえ、一地区三〇〇世帯平均とし、全市を二〇地区に分割、それぞれ指導員を配置することにきめた。

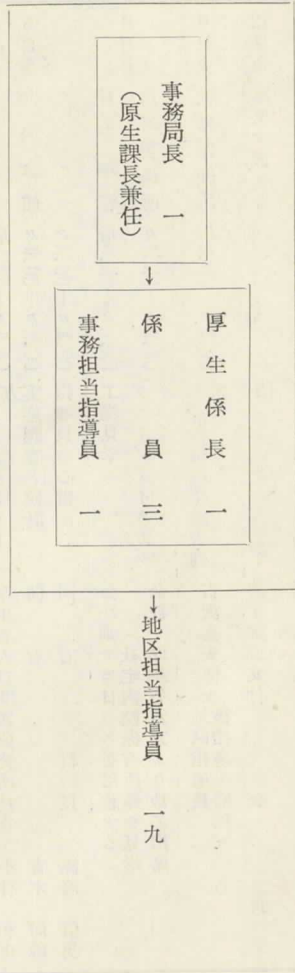
### ◇ 事務局の設置

前年までは、この運動の規模も小さかつたので、厚生係の一部としてこの運動の世話をしていたが、運動が第二段階に入つて、川崎全市が活動範囲となると、とても片手間の仕事では目的を達することができないので、いよいよ本格的に事務局を設置して、積極的に運動を盛りあげていくことになつた。その事務局の編成はつぎのようなものである。(三〇頁)

新生活運動指導員養成講座日程表

期日	場所	時間	演題	講師
32日(水)	共済会館	后、〇〇—〇〇〇	発会式	
5日(金)	公衆衛生院	后、〇〇—〇〇〇 后、三〇—〇〇〇	性生活と産児調節 健康生活	厚生省人口問題研究所科長 篠崎 信男 国際福祉協会理事 医博 脇田 政孝
6日(土)	公衆衛生院	后、〇〇—〇〇〇 〇〇—〇〇〇	人口問題から見た家 族計画 産児調節指導の実際	厚生省人口問題研究所部長 館 稔 都立墨田病院 医長 古沢 嘉夫
8日(月)	公衆衛生院	后、〇〇—〇〇〇 〇〇—〇〇〇	家庭生活と衛生犯罪 公衆衛生と産児調節	警視庁衛生技師 小野 常徳 国立公衆衛生院 医長 古屋 芳雄
10日(水)	共済会館	后、〇〇—〇〇〇 〇〇—〇〇〇	人口問題と新生活運 動 日本の人口現象	人口問題研究会 理事 永井 亨 厚生省人口問題研究所 所長 岡崎 文規
13日(土)	読売ホール	前、二、〇〇—四、二〇 后、二、〇〇—四、二〇	日本性学会大会 傍聴 研究発表 八題 学術映画 二巻 特別講演 シムボジ アム	プログラムを当日交付する
17日(水)	公衆衛生院	后、〇〇—〇〇〇 〇〇—〇〇〇	乳幼児死亡とその対 策 性教育の実際	国立公衆衛生院 次長 齋藤 潔 文京区立第九中学校 校長 大塚 二郎

19日(金)	公衆衛生院	后、00—//ニ、30 //ニ、30—//四、00	日本の生活改善 人生案内に出る家庭問題	読売新聞社編集委員 読売新聞人生案内担当・医博	渡辺智多雄 山本 杉
22日(月)	厚生省	后、00—//ニ、30 //ニ、30—//四、00	優生保護法の活用について 避妊薬と薬事法	厚生省公衆衛生局庶務課長 厚生省薬務局薬事課技官	小沢 辰男 久万 楽也
23日(火)	厚生省	后、00—//ニ、30 //ニ、30—//四、00	善家庭に於ける栄養改善 家庭に於ける性病問題	厚生省公衆衛生局栄養課技官 厚生省公衆衛生局防疫課技官	岩田 昌一 中原竜之助
33日(火)	共済会館	后、00—//ニ、30 //ニ、30—//四、00	家庭生活の合理化 家庭争議とその解決	早稲田大学教授 最高裁判所家庭局判事	今 和次郎 内藤 文質
5日(金)	共済会館	后、00—//ニ、00 //ニ、00—//三、00 //三、00—//四、00	家庭生活の科学的見方 実態調査と統計 指導員の心構え	厚生省人口問題研究所技官 同 右 同 右	小林 和正 青木 尙雄 篠崎 信男
8日(月)	日本鋼管 川崎製鉄所	后、00—//一、30 //一、30—//四、30	工場見学 グループデイスカツ シヨソ	会社側で当日バスを用意する (社宅病院保有等を見学) 会社、厚生省双方より数名出席	
9日(火)	向島保健所	后、00—//四、00	モデル地区座談会列席	古沢嘉夫博士 地区指導員 被指導主婦約五〇名	
12日(金)	厚生次官々舎	前 11、00— 后 11、00	閉 会 式	終了証書交付 討論会	長



事務局の任務は、従業員家庭主婦の自主的活動をたすけ、主婦たちの希望事項、要求事項をとりまとめて、あつせんする機関となる。同時に、その要望に応じ、この仕事の企画立案をする。また各地区員、グループ委員と密接な連絡をたもちながら、その活動状況を把握するわけである。

一例をあげれば、あるグループの話しあいでは、乳児栄養の話題がでるとする。指導員は、自分の知識経験をもとに、哺乳栄養の説明なり、スライドの展示をする。主婦たちのなかには、せつかく栄養の知識を得たついでに、家庭栄養料理の研究に進もうではないかと、提案



する。指導員はこの要望に、他の主婦たちの意見をとりまとめて、事務局に報告する。事務局側は、この問題を検討のうえ、とりあげることは一決すれば、他の地区、グループにも、構想を流し、指導員にも、委員たちにも連絡相談する。そして、料理の専門家をよんで、要望に適した栄養料理講習会を開く。希望なり、連絡が行きとどいているので、大ぜいの主婦たちが、喜んで参加し、しかも習いつばなしではなく、各グループに帰つて、指導員を中心に、講義の批評なり、その晩の実験結果、ダンナ様がたの感想なりをお互いに伝えあうのである。

#### ◇全市対象の組織と活動

全市居住者対象となると、範囲はひろいし、社宅のみならず自家、借家などの一般住宅が散在し、しかも川崎市は南北にウナギの寝床の如く、ながくひろがつて、近郊農村的地区あり、工場地帯ありの状態なので、社宅対象の場合とは単位や内容をかえ、つぎのような系統で組織した。

組合系統は右のようであるが、活動の主体は委員——家族のグループ単位である。従業員家庭の密集する地域は二〇名前後、はなればなれに点在する地域は五名程度に組織し、担当

# 新生活運動組織系統図

委員長 (労務部長)

副委員長 (主婦代表4名)

中央委員会 (主婦役員全員年2回の総会を持つ  
及び会社係員)

厚生省  
財団法人  
人口問題研究所  
人口問題研究会  
保健課  
鋼管病院

推進委員会  
事務局 (厚生課)  
(指導員20名)

地区  
地区  
地区  
委員  
委員  
委員

(20地区委員32名)  
委員は主婦  
年数回の地区委員会を持つ

委  
委  
委  
員  
員  
員

(410グループ)  
委員は主婦  
各地区委員を中心とした月  
例委員会を持つ

世  
世  
世  
帯  
帯  
帯

各委員を中心とした月例会  
を持つ (1グループ 5名  
~20名) (5,366世帯)

指導員がでかけていつては、個人指導と集団指導をくりかえすのである。

しかし、一言に組織といつても、対象が多数かつ広範囲であつて、短期間でこれをつくりあげていくことは、容易なことではなかつた。このため、事務局員、指導員、主婦の委員は、なみなみならぬ苦勞をつづけた。

地区の名簿にもとづいて訪問——懇談会——委員の選出をくりかえし、一グループ毎に組織し、ついで委員より地区委員を互選し、はじめて地区委員——委員——家族グループというかたちがまとまる。委員に推せんされても、いやだといつて逃げまわる人もいるし、あの委員さんではまとまれないと、ダダをこねる主婦もいるし、その組織に一汗をかいたわけであつたが、大部分の委員たちは、グループの信頼をうけて選出されただけに、指導員と一般家庭の連絡係として、骨身おしまぬ働きを示した。自分の家の六畳の間を、集会の席に提供することはもとより、泣きわめく子供連れのためには、その子供の『臨時保育』として、次の間であやすという、悪戦苦闘も、笑顔で引受け、二カ月間で早くも五、〇〇〇世帯の組織を完了する手助けをしたのである。この運動の成果は、事務局の熱意、指導員の献身もさることながら、このような縁の下の力となつてかけずり廻つた委員の努力があつてこそ、はじ

めてなし得たということがいえるのである。

#### ◇指導員の活動

前に述べたように、家族計画の普及および指導には、家族計画指導員（助産婦の資格をもち、かつ受胎調節指導員の指定証を得ているもの）があたる。これらの指導員の活動状況を、やや詳しく記録してみよう。

#### イ、地区の分割

川崎市内居住世帯の集密度に応じて、地区を次の図のように分割し、それぞれの地区に一名づつの指導員を担当させてある。一地区は三〇〇世帯平均、年間実働日数二〇〇日、一日あたり六、七軒の個別指導を行うとすれば、同じ家庭を三カ月に一度づつ巡回できる勘定となる。もちろん、これに月例のグループ会、委員会などの会合が加わるわけである。

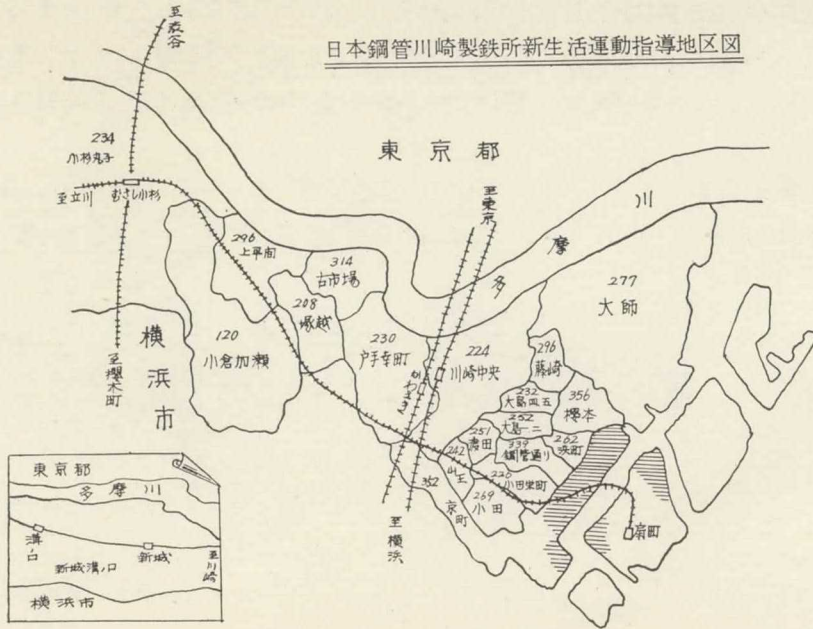
#### ロ、指導員の携行品

下げて歩く指導用カバンの内容は、

指導用模型一、白衣二、

脱脂綿、ガーゼ、パット

日本鋼管川崎製鉄所新生活運動指導地区図



註  
 数字は世帯数を文字は地区名を示す  
 地区は当工場地区を示す



消毒薬（三種類入りのケース）、ハサミ

ヤスリ、ゴム手袋、タオル入れ

その他、指導用テストリング

衛生器具各種の見本及び販布品、

指導用掛図、スライド、フィルム

身分証明書、薬価表

これらを七ツ道具として、指導をするわけである。

ハ、指導の方法

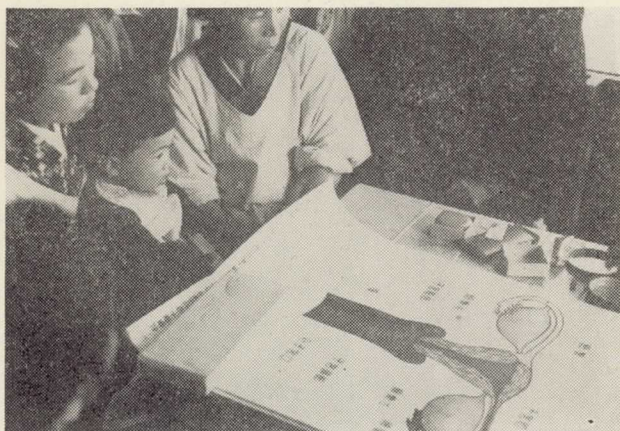
組織されたグループに対しては、基礎指導をはじめに行い、ついで個人指導にうつるが、ままとまりの困難なグループは、個別訪問で顔なじみになつてから、基礎指導の集会をつくる。

基礎指導は、保育所、集会所などの施設があれば、それを利用するが、大部分は委員の家の一室、あるいは持廻りの当番などのかたちをとつて、部屋を提供してもらふ。まず家族計画の意義を、肩のこらない話しぶりで説明し、ついで掛図（人体構造図）・模型・スライド



基礎教育の会場となつた委員さんの宅へ

などを用いて、視覚教育を行う。はじめのうちは、借りてきたネコのように、おとなしく坐っている奥さん方も、生命の神秘、人工妊娠中絶の弊害を、立体的に平易に解説すると、ひざを乗りだして聞耳をたてるようになる。多くの主婦たちは、月経はどうして起るのか、中絶手術はなぜ害があるのか、はつきりした基礎知識をもつていない。それ故、いまさらのように自分の体の問題について、認識を新たにするのである。またこ

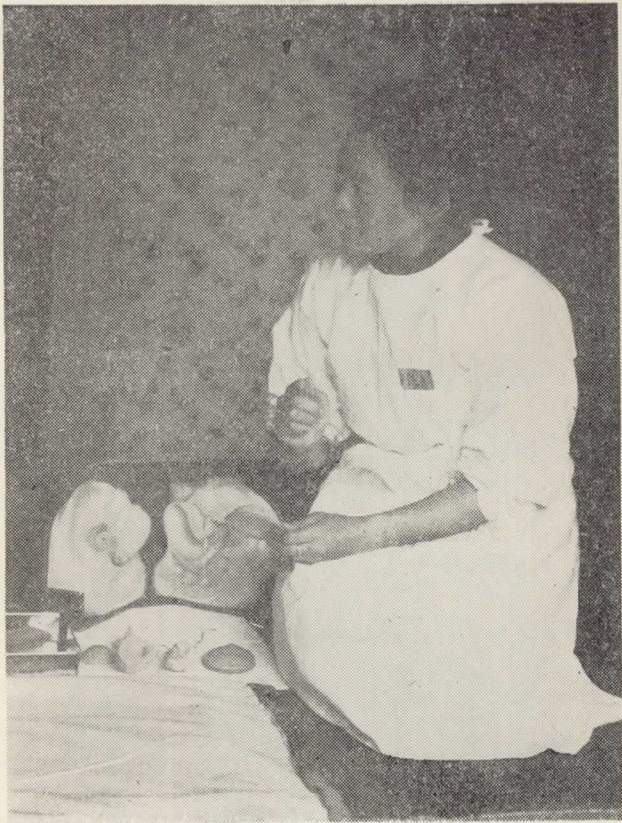


掛図による一般女性生理知識の説明と主婦たちの真けん  
な顔 『排卵とは……』

の基礎教育は、ただ知識教育に役立つばかりではない。集つて、自分たちの問題を考えあうという、協同感、親和感のみなもととなる。トンチンカンな質問ができれば、かえつてその場の空気をときほぐす、五十才過ぎの主婦が、『わたしには用はないけれど、年頃の娘の性教育のために。』と、熱心に出席すれば、ほかの奥さんたちのはげみにもなる。そして、最後には三〇分の座談会を開けば、実感のこもつた体験談もとびだし、指導員とグループの間に、すつかりなじみができる。

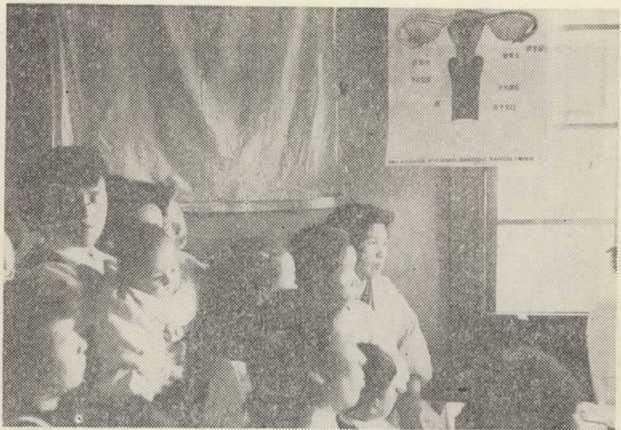
基礎指導が終ると、一軒一軒の個別訪問をはじめ。待つていましたとばかり応待する家庭もあり、教わらなくてもしつていますと





模型を用いて受胎調節の理論及び方法の指導

『ベツサリーはこうやつて……』



器具、薬品の実物見本の紹介  
熱心な主婦たちの瞳は、指導員の一挙一動を追う

ばかり断る家庭もある。指導員は決して強制をしない。そして家族計画のみの指導におわることもない。子供のある家庭では、保育の相談にものるし、中年の家族では、不感症の如き、人にいえない悩みにも、たよりにされる。ある地区では、娘さんの縁談をたのまれ、他の指導員の地区で候補者をさがしてもらつて、その話をまとめ上げたという、ほほえましい例もある。

しかし一方、最初のうちは、双方とも慣れぬゆえ、種々の悲喜劇を重ねた。この個別訪問中の指導員の苦心談の二、三を紹介すると、

《保険の外交員とまちがえられ、居留守を



笑顔で送られて次の会場へ

つかわれた)

戸を締めたまま、窓から、なんですかと、うさんくさげに問われ、証明書をだすと漸く戸をあけてくれたものの、玄関先きで話をする程度。これは基礎指導に出席せず、顔なじみになつていない場合に多い。しかし、このような家庭は、最初はアイサツ程度にきりあげ、二、三回足をはこぶうちに、打ちとけて話しあうようになる。

《犬にかみつかれる》

大きな犬を飼つていて、門を入つたとたん、向うズネをかみつかれたが、奥さんがすつかり恐縮して、かえつて短期間に仲よくなつた。指導カバンの消毒薬が、はからずも指

導員自身の役に立つたという話。

《御主人にことわられる》

製鉄所は三直交代なので、御主人が在宅する場合が多い。『わたしにもためになるから。』と、御夫婦そろつて指導をうける家もあり、『家では必要でないから。』と御主人にことわられることもある。ある指導員は、身銭をきつて、その家の子供にキヤラメルを与え、すつかり子供と仲よしになつてしまつたので、御主人の心もほぐれ、奥さんも熱心に指導をうけるようになったという。その子供は、近ごろ指導員がいくたびに、『お母ちゃん先生がきたよ！』と、注進してくれるそうである。

《姑のいるある家庭では》

お嫁さんは熱心に指導をのぞんでいるのだが、お姑さんが反対して、指導がうけられない。それに対しては、お姑さんと話しあう機会を何回もつくり、家族計画とは、必要なときに赤ちやんを生み、赤ちやんをつくる時、またできなくする指導ではないと説明して、やつと指導のお許しがでた。いまでは、この運動が家族計画ばかりでなく、レクリエーションまでも含むことを理解し、映画会や、バスにのつて見学する催しなど、お姑さんの方が楽しみ

にしている。

《従業員の主婦で助産婦をしている人から一時白眼視された》

『わたしの主人の勤める会社の運動なのに、他の助産婦が入りこんで、職場をあらすなんて……』というのが、この人のいい方である。この人には、わたしたち指導員は、あなたの仕事をとるのではなく、従業員主婦だけの指導をするので、それ以外の一般住宅の指導はしない。もちろん、お産の方へは手をださない。むしろ他の地区で産婦があれば、あなたに紹介することも心がけていると説明し、また実際にそのようにして、積極的に協力するようになった。

《台風について》

二十九年秋のキティー台風には、京浜地区の交通がとぜつした。ちようどその日に、あのグループの基礎指導の約束があつた。その上、担当指導員は風邪ぎみで発熱していた。しかし一たん約束した以上、待ちぼうけをくわすことはできない。指導員は長靴と古コートをまとい、電車の止つている区間は歩いて、会場にたどりついた。主婦たちは、どうせ会合はないものときめてかかり一人も姿をみせなかつた。しかし無駄足にはならなかつた。主婦

たちはあとで委員に、指導員の行動をきき、約束を守る人という信頼を得たのである。

以上のほか、地図をみながらようやく訪ねてみれば留守であつたり、用をたしたくても、みしらぬ家ばかり、訪ねた家庭でアイサツ早々便所を借りたり、こんどの日曜日に来てくれといわれ、出勤日でないのに約束だから、その日に訪ねてみれば、締切つて留守であつたり、隣り同士のケンカにまきこまれ、あの人の味方をする指導員なんて用はないと断られるなど、指導の当初においては、各地区の指導員とも、非常な苦勞をした。

しかしながら、指導にあたつてもつとも必要なのは、『根氣』であり、『ねばり』である。ことに、この製鉄所の従業員には、東北地方出身の人たちが多いので、したがつて奥さんたちも東北からきた人が多く、親しみが深くなると人間味がでてくるのだが、最初のとつつきがわるい。しかし、なんべんも訪ねて仲よしになり、とおりいつぺんのあいさつの段階をこせば、この運動は急速にすすむ。このことは後に述べる調査結果にも、はつきりあらわれている。

#### ◇指導研究会の勉強

このように、運動をすすめるにあたつて、その尖兵的な役割をする指導員たちの、家庭訪

問のときの、言語、態度は、この運動の成果に大きな影響をもつ。巡回の間には、技術的問題のみならず、精神的問題もあらわれる。このような根本的な問題を、お互に研究し、解決し、自信をもつて指導にあたる必要がある。

たとえば、『主婦たちと親しくなるコツ』という研究テーマを討論する。これについては、ただ観念的にこうしたらよい、ああしたらよいというのではなく、実際にあたつて考え実行したその体験にもとづいた発表を、各指導員がこの研究会の席上で行い、これに対して他の指導員が賛成なり批判なりの討論をし、列席の専門家の注意をうけ、一つの結論をだし、これをつぎの指導に活用するのである。

そのため、この研究会には、事務局側のみならず、保健、衛生、組織指導の専門家の列席をもとめ、技術上の難問でも、有機的な連絡方法でも、すべてこの席上で合議の上、一つ一つ前進させようというわけである。

この会の参加者は、

事務局側——事務局長、係長、係員、指導員

二〇名

保健課、日本鋼管病院側——保健課長、病院長、産婦人科医長

人口問題研究会側——永井理事長、篠崎博士、青木技官

ここで月例の指導研究会の内容にふれてみる。

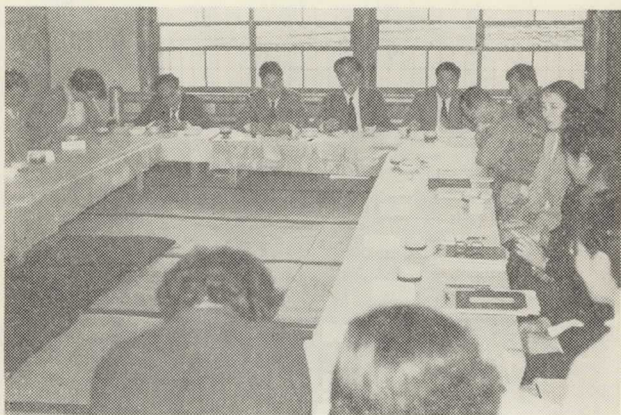
《テーマに基いての研究》

前に述べたように、『主婦たちと親しくなるコツ』、『御主人の協力をもとめるときの話し方』、『子供の性教育』、『新婚夫婦の指導法』、『不妊手術の心理的諸問題』、『基礎指導の質問の受け方』といったふうには、テーマをだし、話し方の技術のみならず、理念の統一をする。けれど、ある地区の話しと他の地区の話しが、ムジユンしては、信頼を失うものになるからである。

《指導中に起きた実例についての研究》

巡回指導中には、たくさんの方々の具体的な相談を受ける。なにしろ、人にはいえぬ相談までも持ちかけられ、特殊のケースもきわめて多い。指導員は技術、人格の点では問題ないが、とくべつ例外的な相談、あるいは精神的な悩みに対しては、常識的な回答しかできない。もちろん、『聞き上手』も一つの効果で、グチのこぼし口になつてやるだけでも、相手が満足する場合もあるが、この問題について指導体験を発表し、お互いに勉強し、列席の専門家の教え





指導研究会風景写真

をこうことは必要である。成功した体験をきければ、他の指導員の勉強にも、はげみにもなり、失敗談の告白をきけば、ユーモアのうちに、他の指導員の反省にも、いましめにもなる。このようにして、新しい知識を身につけ、つぎの指導を改善するわけである。

ある指導員は、指導後一年、しみじみとこう語った。『わたしは指導する立場ですが、この一年かえつて指導されるようなものでした。奥さん方からいろいろ教えられることもあり、先生方から新しい知識も受け、自分の勉強をしたようなものです。』

◇事務局と指導員との連絡

指導員はほとんど毎日、各グループを巡回

して、家庭訪問をつづけているが、巡回にさきだち、事務局に立ちより、その日の訪問さき、場所、時間および明日の予定を連絡簿に記入し、また携行品の補充をする。しかし、指導員と事務局員が全員顔をあわせるときはほとんどない。そのため毎月の十三日を、事務局および相互の連絡日として定めている。前記の研究会は、総合的、学問的討議にあて、この定例連絡日は、こまかい事務的連絡相談の機会として、活用している。なお指導員服務規程をさだめて、その任務を監督している。

指導日は、指導員自身が産院を経営しているものもあり、助産婦としての仕事ももっている。あらかじめ出勤可能日をさだめ、それにもとづいて担当地区の家庭訪問をやつてもらうようにしているが、実際に指導をはじめてみると、主婦たちより、予想外の期待と信頼をうけ、いろいろの要望をかなえてやらなければならないので、当初にさだめた出勤日以外にも出勤することが多く、隔日勤務のかたちが、現在では連続常勤の状態になり、事務局も指導員も、嬉しいことは嬉しいが、と多忙の悲鳴をあげている。

## 運動の進展にともなう調査の実態

前年度は、この運動発足の初年であつたので、この対象を、とりあえず社宅家庭一、〇〇〇世帯に限定して、モデル地区にとりあげ、運動の反応や効果を観察した。

その結果、反響が意外に多く、従業員家庭の熱意もわかり、着々成果をおさめていることもうかがわれたので、今年度は運動の進展にともない、対象世帯を社宅だけにかぎらず、川崎市内にある一般従業員家庭にひろげ、いちやく五、三六六世帯に拡大していることは、前に述べたとおりである。

前年度の社宅世帯は、密集していて、普及指導に便利のうえに、運動開始以前からすでに、社宅名簿もとのつており、家庭相互の交際連絡の機会も多くあつたが、これが一般家庭となると、市内全地域に散在しており、これをグループ別にまとめねばならず、連絡の十分や、指導の困難が予想されていた。

このために、第二年度の終りをまたず、半年を経過した時期に、実践面における指導員の能力や、各家庭の反応や関心の程度を急速にしり、こんごの対策の助けとする必要がある。

さらに、この運動を新生活運動と名づける以上、家族計画の普及指導に重点はにおいても、運動の方向はどこまでもそれを通じて家庭生活の合理化と幸福をめざすものでなければならぬ。そのためにこそ、運動実施要領に八つの実施項目をかがけていゝるのだから。

それ故、この線にそつた幅ひろい運動をすすめるためにも、主婦たちの心構え、希望の方向を、この時期に推察して、窓口をひらいてやらねばならない。

以上の理由で、この中間調査は、指導による反応を目的としたものであつたから、調査の対象は、すでに一回でも訪問したことのある三、一二九家庭にかぎつた。この年度の指導予定総世帯数は、上述のとおり五、三六六世帯であるから、その割合は五八%で、半年間に年度内訪問予定の半数以上を巡回訪問したことになり、指導員の根気と熱意がうかがわれる。

調査の内容は二段にわかれている。この一段は、家族計画の効果判定に資するよう、指導員が受持世帯のカルテ（訪問の日取りや、実行状況をメモして保管してある世帯票）を参照して、自ら記入した。この記録は直接インタビューの資料であるから、正確度がたかい。他の一段は、新生活運動一般に対する各家庭の反響、批判、希望などの世論調査で各家庭の自主的判断を尊重し、無記名のアンケートを配布し、記入方法はごく簡単な項目に対するマ

ルタイプル・チョイス式（いくつかの質問を併列しておいて、該当の項に○印をつけさせる）によつた。未回収票および、妻の年令五〇才以上の票を除き、統計に用いた実数は二、八七〇である。

### 家族計画の実行状況

(1) 実行の努力は進みつつある

『指導以前における四〇・七%の実行率は、前年度の基礎調査（二二二頁参照）における三九・七%とほぼ一致し、前回の調査と今回の調査との間に、約一年半の経過があるのにかかわらず、このように実行上昇がほとんどないのは、個別指導をえられない自己流の実行には、限界があることを示し、巡回個別指導の必要性をよく物語つている。

さらに、『指導以後』の実行率が、指導開始よりわずか半年の期間に、『指導以前』を三〇%も上廻つていることは、この運動の指導効果を、明瞭に示している。また、前年度の指導成果の調査のときは、指導開始より一年で実行率五六・〇%であつた（二二二頁参照）ことにくらべると、指導員の増加したことにもよるが、前年度の経験によつて運動実施の方法の改善をはかつたことや、指導員養成講座によつて多角的に訓練され選ばされた指導員が、新

現 存 子 供 数 別 実 行 率

現存子供数	調 査 数	指導以前		指導以後	
			%		%
0	272	33	12.1	119	43.8
1	619	178	28.8	393	63.5
2	763	350	45.9	575	75.4
3	647	336	51.9	510	78.8
4	353	176	49.9	283	80.2
5	146	74	50.7	108	74.0
6	43	15	34.9	27	62.8
7人以上	27	5	18.5	18	66.7
合 計	2,870	1,167	40.7	2,033	70.8

組織家庭の指導にあつたこと、および本運動実施以来二ケ年目にして、ようやく運動の意義が、従業員家庭の中によく理解されはじめていることによると思われる。七〇・八%の実行率は、大都會の知識階級の実行率五〇を超え、欧米諸国人の実行率に匹敵する率である。

さらにこの成果を、妻の年令別に観察すると、いつそうはつきりする。『指導以前』においては、子供数三人のところ、いちばん高い山がみられ、子供数零人および子供数七人以上のところのすそ野は、二割以下のひくい率である。つまり子供がないときや一人ぐらいのときはボンヤリして、三人になるとあわてて実行をはじめ、子供数六、七人になるとガツカリして実行希望を失う状態を示している。このように『やりきれなくなつて』からの実行ではなく、『指導以後』のように、無子家庭でも将来を考え

て四割台の実行率を示し、七見以上の家庭でもあきらめずに努力するカーヴは、理想的な私たちとなつてゐる。実行の努力は進みつつあるといつて、言い過ぎではない。そのほか、統計表は省略してあるが、工員家庭の実行率が事務職員家庭の実行率とほとんど肩をならべてゐることは、この運動がいわゆる知識層ではない家庭に重点をおいて指導した効果をあらわし、また、独立住宅（市内に散在する家庭）の実行率が集合住宅（社宅やアパート）の実行率よりわづかながらたかいことも、組織の不便な地域でさえ、熱意ある個別指導をくりかえせば、実行するにいたることを証明してゐる。

(2) 実行の腕はみがかれてゐる

指導員は半年間に延べ四、〇〇〇回の指導を行つてゐる。平均して同じ実行家庭を二回づつ廻つてゐるわけである。当然、実行技術の向上はいちぢるしい。

『指導以前』にはコンドーム（サック・スキン）が圧倒的に多く、半数以上をしめ、ついで定期禁欲（萩野式）、ゼリーの順序になつてゐる。確実なペッサリーの普及が一割にもみたないこと、有害な性交中絶（膈外射精）があとをたたないことも『指導以前』の特色である。

実行方法分布

実行方法	指導以前		指導以後	
		%		%
コンドーム	799	54.2	762	23.5
定期禁欲	213	14.4	334	10.3
ゼリー	125	8.5	1,247	38.5
錠剤	106	7.2	58	1.8
ペッサリー	91	6.2	748	23.1
性交中絶	58	3.9	22	0.7
スポンジ	58	3.9	21	0.6
洗滌	13	0.9	13	0.4
基礎体温	6	0.4	30	0.9
リソング	6	0.4	4	0.1
合計	1,475	100.0	3,239	100.0
一人当りの方法数	1.28		1.86	

ところが『指導以後』になると、ゼリーの使用の割合がいちじるしくのびて、四割近くになっている。ゼリーは、これを単独に使用するものは少く、大部分はペッサリーに塗布するか、コンドームの補助剤として使う複合法で、これはだんだん実行方法が高級になつたためである。論より証拠、実行方法を人数で割つた、一人あたりの方法は、『以前』の一・二八に比べて一・八六となつており、一人あたり二種類ぐらゐの複合法をたくみに使いこなしており、技術がしだいに熟練していることがしられる。

コンドームが第二位におちていることは、この方法が男性側のもちいるもので、主婦たちの知識、意欲——実行に対する関心が増加すると



ともに、女性が主体となる方法にかわつてゆくことを示す。ペッサリーが、効果の確実性にもかわらず、『以前』に一割にもみたなかつたのは、その挿しこみが技術を要し、専門家の指導をまたねばならなかつた理由からであつた。これが専門指導員の巡回によつて、第三位に増加をみたわけである。そして一方、性交中絶・スポンジの如く、精神に障害を生じやすい方法、効果のやや劣る方法が、しだいに減少しつつあることも、具体的指導の効能である。

この技術の向上と、実行の熱意により、望まざる妊娠の割合も、いちじるしく減少している。『指導以前』には、実行中にもかかわらず失敗妊娠した家庭が一七・七%の多きに達しているのに、『指導以後』は、わずか〇・七%で、のこりの九九%以上は、受胎調節に成功しているのである。そして、いままで失敗妊娠の抜け穴であつた人工妊娠中絶(だいたい)は、『指導以前』の二三八件にくらべ、『指導以後』はただの六件という、めざましい減少ぶりを示し、人道的にも衛生的にも、明るい望みが生れている。

### 新生活に対するアンケート

(1) 指導員は笑顔で迎えられている

実行による効果

実行中の望まざる妊娠		指導以前		指導以後	
			%		%
妊娠あり	207	17.7		14	0.7
妊娠なし	960	82.3		2,019	99.3
計	1,167	100.0		2,033	100.0

指導員の指導法態度に対する意見

質問『あなたは指導員の教え方や態度についてどのように感じますか』

意見	調査数	%
好ましい	1,420	49.5
普通である	1,235	43.0
おしつけがましい	61	2.1
不明	154	5.4
計	2,870	100.0

家族計画の巡回指導に対する意見

質問『あなたは家族計画のような微妙なことを巡回指導していることについて何とお考えになりますか』

意見	調査数	%
歓迎する	2,156	75.1
別に何とも思わない	568	19.8
こういうことは指導すべきでない	23	0.8
不明	123	4.3
計	2,870	100.0

半数の家庭が指導員の態度に対して、好ましいと回答している。普通であるとの答えを含めれば、実に九割以上が笑顔で迎えているわけである。がんらい、家族計画の指導は困難なもので、強制せず、しかも相手の意欲をもり立ててゆかねばならないのに、指導員たちの努力で、半年の間に、かなりよい人間的接触の効果をあげている。

そして、受胎調節の技術指導は、必然的に各家庭の個人的生活にまでたちいるので、指導する側の細心なたゆまぬ努力と、指導される側の真けんな受けいれとが相まつて、はじめて目的が達成される。それを家庭の七割以上が巡回指導を歓迎し、指導を拒否、嫌悪するものが一%以下であることは、この運動の発展にきわめて明るい希望をもたせた。

(2) 新生活全般に対する関心がたかまつている

前にも述べたとおり、家族計画ばかりが新生活運動ではない。ただ、家族計画をふみ台にすれば、生活全般に対するはりあいができるようになる。この興味やはりあいをもてるようになった家庭が半年間に五割を示しており、個人的に前から興味をもっているものが二割であったのにくらべ、二倍以上になつている。ここに組織運動の強みを發揮しているわけである。

### 新生活運動に対する関心

質問『あなたは新生活運動がはじまつて生活の合理化について、興味や張り合いがもてるようになりましたか』

意見	調査数	%
持てるようになった	1,480	51.6
そうでもない	519	18.0
前から持っている	591	20.6
不明	280	9.8
計	2,870	100.0

### 新生活運動の多角化に対する熱意

質問『あなたは家族計画以外のことでも生活の合理化について、色々の指導やあつせんをしてもらいたいと考えておられますか』

意見	調査数	%
大いにしてもらいたい	2,328	81.1
どうでもよい	344	11.6
する必要はない	40	1.4
不明	158	5.9
計	2,870	100.0

また、新生活運動をもつと多面的に進めてほしいという希望は、実に八割の家庭が積極的に表明している。具体的にどのような方法で運動の展開、あつせんを望むかは、講習会、慰安の催し、貯蓄運動の順で、指導後半年の段階では、和洋裁、あみもの、料理などの各種講習会の開設をのぞむ声がいちばん多い。

× × ×

以上の調査結果をしつて、事務局も指導員も、覚悟を新たに

した。家族計画はきわめて順調にすすんでいる。毎月の指導研究会で指導方法をお互いに改善しながら進めていけばよい。しかし、それとともに、生活設計の方面にも、主婦たちの要望にこたえ、手をのばす時期がきている。家族計画が理解できれば、家族一般の合理化にも眼がひらける。そして、主婦の座談会、委員会を組織していることは、主婦たちの親睦と協力の気運をつくりつつあり、各地区の報告にもあらわれている。

たとえばA地区ではこういうことがあつた。ある主婦が、以前いくら自分の家の便所をきれいにし、DDTをまいても、ハエはいつころ少くならなかつた。それは向う三軒両どなりから、新しいハエの軍勢が侵入してくるからである。そこでこの主婦は、グループ会の席上を利用して、蚊とハエのぼくめつ運動を提唱した。そして、そのためにはこの地区に散在する従業員家庭だけでなく、それ以外の一般家庭——八百やさんも、ほかの会社のサラリーマンも——とも共同しなければならぬと衆議一決した。地域婦人会と相談して、合同の座談会をひらき、同一の日を期して便所の汲みとり口の土を掘り返し、家のまわりのドブや水タマリをきれいにし、共同購入の殺虫剤（一軒一軒で買うより安くつく）をまくことにした。おかげでその日いらい、蚊やハエに悩まされず、子供の病気もめつきり少くなつた。主婦た

ちは、これから毎年、梅雨があけたらすぐこの運動をはじめるとハリきつている……。

B地区はアパート区域である。ここには裏の広場に紙芝居やがきて、俗悪な絵と汚ならしいアメとで、子供たちを釣つていた。委員会がこの対策が相談され、代表が紙芝居やに改善を申し入れたが、一蹴された。主婦たちは再び相談のうえこの紙芝居をポイコットした。

それからもこの紙芝居やはなんどもやつてきて、太鼓をならして子供たちをさそつた。主婦は歯をくいしばつて、子供がみにいくのを許さなかつた。ついに紙芝居やもネをあげて、和睦を申し入れにきた。衛生的なアメと、教育に害のない絵をみせることを条件として。主婦たちはこれを承知した。各地区の委員もこれをきいて、ぞくぞくみならいつつある。

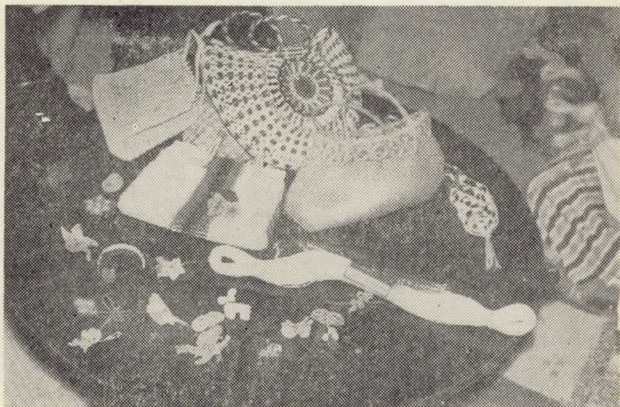
この二つの例はそれぞれ成果をおさめたが、問題はそれ一つの改善にかぎらない。このグループ会、委員会の討論と、協力とをキッカケとして、主婦相互の性質に理解を深め、一つのことをなすとげるには集団的にやるのがいちばんいいのだ、この集りを基礎にすれば、さらに建設的な仕事に役立つのだということ、自らの体験を通じて学びとつているのである。

## その後の運動の発展

これらの事情と気運をしつて、事務局は、残りのグループに対する家族計画指導および会合の設営はそれとして進めるとともに、組織化したグループの自主的な運動に対しては、できるだけ要望に応じて協力し、具体的な内容の立案、対外接衝（講師のあつせん、謝礼）などを援助し、その実施要領を委員に伝えることにした。委員はさらにこれを担当のグループに伝え、グループの希望を再び事務局にもつてきて、これを検討して、実施にうつすというやり方である。こういうように、下から上へ、さらにこれを下にしらせることをくりかえす一方、グループ毎に自由な活動もできるようにし、いずれかの地区でたえずなにかの活動が行われるというのが、その後の状況である。いまこれを最初に述べた実施項目別に、かんたんにふれてみよう。

### 教養に関すること

多忙な家事におわれて、家庭内にこもりがちな主婦たちに対し、社会的視野をひろげ、知識をもたせるために、講演会、講習会をひらいている。それも主婦たちの本当にききたいこ



あみもの講習会

と、習いたいことについて、要望の声をとりあげ、実用的、建設的な企画をする。たとえば料理講習にしても、サシミやお吸いものというお客さま料理ではなしに、一〇〇円で三人家族が食べれる料理とか、三〇分で仕上げられるつくり方などの段階からはじめ、だんだん栄養の問題や、調理のコツにうつり、ゆくゆくは高級な技術にすすむというやり方である。

《講演、講座》

哺育、子供の不良化防止、しつけの問題がとりあげられ、とくに幼年期、少年期、青年期各期に応じた純潔教育の講座は、好評をばくし、質疑応答が活発であった。

《編物講習会》





ビニール講習会

毛糸あみものは二カ月、ビニールあみものは一週間と、季節に応じて実施している。講習会の設営は、一会場一〇―一五名を単位として、講師がその単位毎に出張教授をする方法である。とかく連続講座は、会場が遠いと、おつくりになり、途中で投げてしまうからである。また、あみもの類は、既製品を買うとたかくつくが、自分でつくれば安あがりなので、なかなかの熱心さであつた。それゆえ、内容も家庭用品を主として教えるが、内職の技術向上を希望する人には、それに応じての指導も実施している。

《洋裁講習会》

一会場一〇―二〇名を単位とし、講習期間は

二カ月で、家庭の衣料は主婦の手でと呼びかけ、希望者を集めては各地区毎に実施している。流行をおうことは避け、ダンナさまのズボンを子供着に改造するとか、古い型の服を仕事着に更生するとか、簡単に早くできるようになることをモットーとしている。講習期間がながいにもかかわらず、とくに進んで受講する人が大部分のため、きわめて活発である。

#### 《料理講習会》

家庭の日常生活に直結することだけに、この講習会は非常に期待をかけられ、いちばんのにぎやかさである。はじめは、各家庭の一室を提供してもらつて会場としたが、だんだん一会場あたりの受講人数が多くなつて、収容しきれなくなつたので、小学校、保育所、公共事務所などを借りて実施している。習う料理の内容については、主婦たちの希望をとりあげて選定する。安く栄養価の豊かな料理の希望が多いので、簡単に入手のできる季節の惣菜材料を用い、味と栄養に留意しつつ、しかも近代感覚をちよつぱりもつた献立を考え、三直交代の製鉄所むきに、いづご主人が帰宅されてもすぐ食事がととのうよう、手軽に短時間で調理できるように、指導している。これらの実習により、コツと要領を覚えると同時に、食品衛生、栄養の基礎的知識の普及をとりこむようにしており、食生活の合理化を通して、各家庭



洋裁講習会

のだんらんを楽しく豊かなものにするという、  
明るさを強調している。『近ごろ料理がうまく  
なつた』とご主人にほめられたとか、『鋼管の  
奥さんは買ひもの上手だ』と八百屋さんに閉口  
されたとか、主婦の意気ごみはすさまじい。

（ふとん綿入れ講習会）

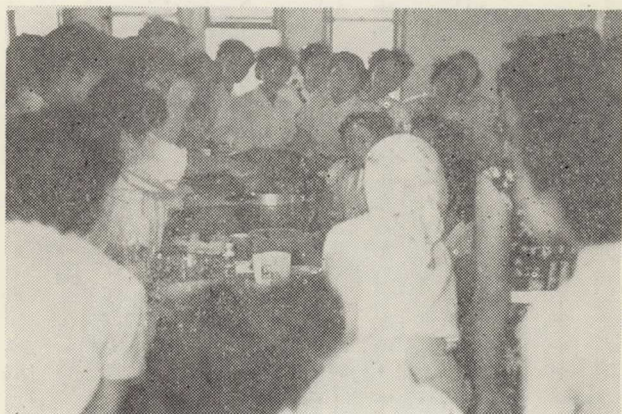
ある主婦の希望をとりあげ、試験的に一会場  
で、秋口の日をえらんでひらいてみたところ、  
圧倒的な人気をよんで、その後の講習会も、一  
会場一〇〇人ぐらいの混雑さで、熱心な実習と  
メモをくりかえすという有様であつた。必要で  
あるが、なかなかシロウトには覚える機会のない  
技術を、手近な問題から解決していく——こ  
の盲点を、事務局側はつくづく思いしらされた

わけである。この種の講習はいままで殆んどなかつたので、成果は大きく、自己流でやつてきた方法の改善や、時間の節約に非常に役立つたと、主婦たちは口をそろえて喜んでゐる。受講人員が対象世帯の約半数におよんだということは、この講習会がいかに好評であつたかわかる。

### 《いけ花講習会》

とくに流派にはこだわらず、主婦たちの希望により実施している。現在行われているのは、小原、草月、遠山の各流であるが、それぞれ盛花、投入れが大部分で、床の間の生花が殆んどないことにも、生活との結びつきがうかがわれる。講習期間は、週一回の三カ月間で、講習会が終ると、そのグループ毎に展示会をひらき、三カ月のみんなの成果を楽しむとともに、地区の人たちやご主人たちにも観賞してもらつて、自発的にやつている。講習参加者が比較的多いのも、実用技術以外に家庭生活のうるおいを望む気持のつよいことを示し、多忙の余暇を、趣味に生き、楽しい一時を過す彼女らの顔は明るい。

以上の講演、講習会は、主婦たちの希望を委員がまとめて事務局に相談し、事務局は会場を交渉し、信用ある講師を依頼し、会場費、講師謝礼を援助する。材料実費のみが主婦側の



料理講習会

負担となる。必要な材料の共同購入や、会場の整備などは、委員たちがすすんで担当し、主婦たちもこれに喜んで協力し、一致協力の状態である。

そしてこの協力精神を学ぶのみならず、次のグループ会の席上で、これらの講座、講習会の内容の批判をし、さらに実際にその衣服なり料理なりを家庭でつくつてみたときの体験や家族の反響をひろうする。子供からお礼をいわれた自慢や、ご主人からケチをつけられた失敗談などを、爆笑のうちにかしあうのである。参考に一覧表を掲げたが、長期間にわたる講習を含めて、二年半の間に、全対象世帯五、三六六のうち、参加のべ人員二六、一四三名、一人あた

り五種類の勉強をしている勘定になる。

### 保健衛生に関すること

家族がみんな健康であれば、そこから明るい笑い声がおこってくる。病人のいない健康な家庭づくりを——この運動は強くとりあげねばならない。不衛生な台所、不潔な便所、乱雑な掃除を家庭からなくそう。食品衛生の知識を向上し、恐るべき食物を駆逐しよう。これらのことについての知識の普及と指導は運動事務局と製鉄所の保健課とが協力してすすめた。

まず、保健課から従業員各家庭に対し『家庭医学』を一冊、救急箱一箇（家庭薬品完備）を支給した。ちよつと薬をのんでおけば、大事に至らないのに、手もとに薬がないと、つい手当がおろそかになるからである。

また附属病院婦人科医長を講師として、各地区毎に毎週一回、『婦人の健康について』という講座をひらいている。

### 《蚊とハエの撲滅》

これについては、とくにモデル地区を選定し、その運動効果の判定に資するようにしている。そして製鉄所の保健課、その地区の保健所と協力し、主婦たちの自主的活動を援助する



ふとんわた入れ講習会

わけである。

モデルになつてゐる二地区のうち、一地区は、前に述べた如く、ある主婦の発言により口火がきられ、地域婦人会とも提携しているものであるが、地元の保健所もその後、積極的な協力をしてくれ、成果は着々と挙つてゐる。

その他の地区に対しても、保健課の医師やその他の役員が進出して、この運動の啓蒙普及につとめてゐる。

また、夏季になると、児童の夏休みを利用して野外の教育映画会、衛生紙芝居を地区ごとにひらき、子供のうちからの衛生思想の発達に役立ててゐる。この場合は従業員の子弟のみならず、一般の子供たちも興味をもつて参加し、そ

の母親たちから感謝されるといふ、予想外の効果も加わつてゐる。

### 生活の合理化に關すること

終戦後十年をへて、生活状態はまだまだ戦前どおりに回復してゐるとはいえないが、おむね安定の方向にすすんでおり、これより生ずる心理的よゆうは、家庭においても、日常生活をもつと改善し、合理化しようとする気持をつくりつつある。これにこたえて、この新生活運動においては、次の四つを重点的にうち出している。

#### 《衣、食、住の改善》

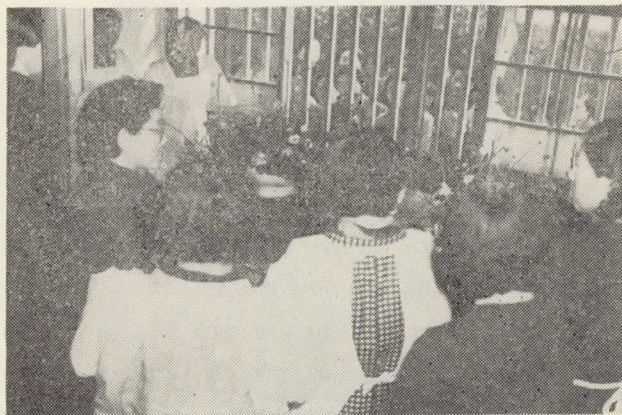
衣、食の改善については、すでに教養に關する運動のところ、洋裁、料理の講習の状況をのべているが、それだけでなく、洗濯の科学化の実演、米食よりパン・めん類食へのきりかえについて、実験談や討論会をくりかえしている。

経費を節約し、豊かで、栄養的にも合理的な食生活の勉強、ハデでない、簡素で品のよい衣生活の勉強など、まだまだこの面で、この運動がとりあげてゆく問題はたくさんある。

住の改善では、現在台所の改善を重点的にとりあげている。

これは必ずしも台所を近代的に設備するというのではない（もちろんそれは望ましいこと





いけばな講習会

ではあるが)。できるだけ少い経費で、主婦たちの職場といつてもよい台所を、使い易い、能率的な台所に改善しようというのがねらいである。

これについては、主婦・運動事務局・担当指定大工の三者が一体となつてやつている。

まず主婦の希望意見をきく、これにもとづいて事務局が研究し、指定の大工に設計させる。

これを主婦にみせ、なつとくのゆく設計のもとに、なつとくのゆく経費で実施するという手順で、改造し、つぎの改善希望者に、これを『モデル台所』としてすすめるやり方である。経費については、その家庭が負担するのであるが、材料費、手間代などを事務局で指定の大工に直

実施講座講習一覽表

	講座	あみもの講習	和洋裁講習	料理講習	生け花講習	ふとん綿入講習	講人形作り講習	講マツサージ	合計
昭和29年	会場	14	62	5	65	—	—	—	
	人員	577	1499	144	1563	—	—	—	3,783
昭和30年	会場	21	47	27	87	37	27	—	
	人員	1243	723	647	4304	3120	2592	—	12,629
昭和31年	会場	53	9	21	47	25	16	2	
	人員	4253	182	635	2386	945	1065	143	9,732

(上期のみ)

昭和30年度は上半期(6ヶ月)のみについて掲げた講座は青少年性教育、子供のしつけ、時局解説、婦人の健康、環境衛生などであるが一括した。

接交渉して安くするため、主婦に大へん喜ばれている。

《貯蓄奨励のこと》

事務局は、毎年各世帯に対して、一冊づつの主婦日記(家計簿を主体とし、その他の役に立つ記事もせている)を配布している。この主婦日記は事務局が直接編さんしたもので、この日記の配布と併行して、つけ方の講習もひらき、計画的に家計を考え、予算生活をするこゝを呼びかけている。

そしてその家庭設計を通じて、貯蓄を奨励し、不時の災難や、老後の生活、子供の進学、結婚資金、あるいは家屋、土



蚊とはえのぼくめつ運動

地購入資金などとして、それぞれの目標を定めて計画的に貯金をするように説いている。このため製鉄所の貯蓄組合には加入者がふえ、前年度の二倍の貯金額になつてゐる。

《相互扶助のこと》

『遠い親戚より近くの他人』で、隣り近所につきあひはなかなか大切のことである。不時の災難のとき、親身に世話してくれる人が隣り近所にいることは、どれほど心づよいことかしれない。このためには常日ごろから『お互いに扶けあう』気持を育てなければならぬ。

この運動では各地区別のグループが活発に会合を重ねていることは前述の通りでこの会合でいろいろ話しあつたり、交りを深めてゆくこと

を勧めている。最近では各グループごとに子供連れのハイキングをやつたり、また、ある地区の従業員宅が類焼のうきめにあつたとき、その附近の人たちはもちろん、社内新聞家庭版をみた他地区の数グループが、見舞品や見舞金をおくつた実例もある。さらに、先年、指導をうけている人口問題研究所の篠崎、青木の両氏が青ガ島を調査して、その生活状態のストライドを委員会の席上で紹介したところ、期せずして孤島の同胞をなくさめようと、絵本やカシメを集め、その荷物の数がリング箱三〇箇に達したという例もある。

（習慣簡素化のこと）

習慣の簡素化については、『なんとかしたい』という考えはみんながもつている。ただ、一般的にはどうしても習慣に支配されてしまうのが、実情である。慶弔に関すること、中元贈答に関すること、いずれも家庭主婦にとつて、家計に大きくひびくことだけに、痛切に考へている。

若い世代の主婦たちは、比較的わりきつていっているだけに、自分の考えを押しすすめ、こんなことはお義理だから必要はないといいきつていっているが、いわゆる戦前派の人たちは、このころの中ではしたくないと思ひながらも、習慣にひきずられている。

従つて、この運動の実施は、グループ毎の申しあわせによる。お互いの自粛がいちばん効果的である。そしてこの自粛から生じた余ゆうは、当然家計をうるおし、目的貯蓄などに廻される。交際費（おつきあい）の節減、宴会費の節減なども、当然こんなやり方で推し進められ、グループ毎にボーナス時期には相談し、議論する風景があらこちらにみられる。時間励行については、グループ会、委員会とも、定刻三分後にはひらけるようにこぎつけた。門松の廃止は、前に述べた通りである。いずれにしても、なにが継承されねばならない習慣か、なにがゆきすぎた悪習か、会合を通じて討論するフニキをもち立てつつある。

#### 育児と子女の教育に関すること

少く生むとともによく育てる——生れた子に対しては親として、当然責任をもつて、健康なよい子を育ててゆかねばならない。家族計画の指導員は、助産婦としての資格をもち、育児についても指導知識をもつているので、この面の指導も、主婦たちの要望に添つて、助言とお手伝いをしている。

また社宅を中心とした地区には、会社経営の保育所があり、小学校入学までの幼児保育にあたつている。ただ地域的に利用者がかぎられているので、母親たちを中心にして育児講座

がこれをおぎなっている。教養の項目のとき述べてある純潔教育講座しかり、しつめの講座しかり、紙芝居しかり、子供の成長してゆく過程で、いろいろ子供から質問をうけても、返答に窮したり、ウソをついてしまつたり、『子供はそんなことをきくんじやない』と叱つてしまつたりが多いので、こういう日常の具体的段階の教育法は、圧倒的な好評をえている。子供についての講座は、母親たちの熱意が反映して、いつも大入満員である。所用のため参加できなかつた主婦たちは、他の地区にひらかれているのを、遠くからわざわざききにゆくありさまである。

### 社会道德に関すること

かたくるしくて敬遠されがちな題目だが、新生活運動を日常の社会生活のうえに進めているためには『エチケツト』が必要である。そして『その出発点は家庭内のエチケツトにある』という考え方ですすめている。

家庭におけるやさしいよい母が、父が、近隣から敬愛されている人が、群集の中へ入ると、恥も自制も忘れ、他人に迷惑をかけるようなことはまずない。しかし、道徳を正面きつて説くより、日常生活にとけこんだふんいきの間に、このエチケツトをすすめねばならな

い。グループ会するとき、人の迷惑にならないようにつとめ、ピクニックのさきで、お弁当をつかつたあとのあの乱雑な紙くずの山をつくらないことなど。こんな手近かなところから、お互いの社会生活を気品のあるものにしてゆきたい。おたがいの自律と豊かな情操——これこそ生活のエチケットの根本とおもわれる。家庭の道徳が育てば、これはおのずから社会全般にひろがる。将来は、子供会を中心に、子供るときから草花を愛し、人に親切にする習慣を養つてゆきたいと考えている。

### 家族の慰安に関すること

ふだん忙がしい家事におわれている主婦たちが、新生活運動の中に慰安を要望するのは、当然である。

事務局では、子供たちの夏休み中などを利用して、野外納涼映画会を計画し、地区ごとに巡回している。また委員や一般主婦たちが、子供たちを集めて、幻燈会や紙芝居なども実施している。四台の幻燈器と十二組の紙芝居セットを、事務局が購入し、申し込みに応じて各地区にわりあてている。これらは、夏期以外でも、希望があれば、いつでも貸出すしくみになつている。

主婦たち自身のリクリエーション——踊りを習いたいとか、グループで旅行したいとかの希望に対しては、事務局が講師や旅行先きのあつせんをしている。近頃は会社の保養寮の利用も、同僚同士の宴会に用いられるより、一家ずれのだんらん旅行が、めつきりふえている。

《親睦会の活動》

新生活運動のグループ組織が発展し、その中にまた自主的に親睦を目的とした集りができている。そして、積立金をしたり、定期的な茶話会をつくつたりして、楽しい一時をすごしている。各地区の集りの名称は、

桜本地区 みさくら 三桜会

藤崎地区 むらさき むらさき会

大島一、二地区 ひふみ 一二三会

大島四、五地区 ふたば 双葉会

鋼管通り地区 新生会

小田栄町地区 いさご いさご会

小田地区 こうわ 鋼和会



川崎中央地区 中央会

戸手幸町地区 幸美会ゆきみか

古市場一地区 つくし会

古市場二地区 小草会

京町地区 ぶどうの会

塚越地区 三睦会みつむつ

小杉丸子地区 みどり会

新城溝ノ口地区 まりも会

小倉加瀬地区 ひばり会

このように、自分たちで頭をひねって命名し、自分たちが運営し、自分たちの力で親睦の効果をあげつつある。いままで、市内に散在し、道であつても同じ従業員の主婦と気がつかなくつた人たちが、子供ずれでピクニックに行つたり、茶話会でボーナスの使いみちを相談したり、まことにほほえましい。昨年の秋の会社運動会には、これらの会が合同して出しものに参加し、『鋼管おどり』をエプロンがけの姿で踊つて、満場三万人の観衆の大かつさい

を浴びた。いままでの運動会は、ほとんど従業員が出場するのみで、主婦たちの出しものなど、思いもよらなかつたのである。さらに、これらの集りが刺戟となり、川崎市の地域婦人会の発展をうながし、その運営の相談にのつたり、招かれて計画に参加したり、合同の会議をひらいたり——一言にしていえば、職域の主婦が、地域の主婦のもはんになり、先生になつているのである。

### 《見学の催し》

子供の社会教育のために、主婦たち自身の知識向上のために、お姑さんの楽しみと骨休みのために、希望の場所を母親たちがきめて、事務局に申しこんでくる。事務局ではこれにこたえて先方への連絡と、バスのおつせんをおこなつていゝる。最近では主婦たちが自分らでバスの交渉をし、料金を値切るといつた進歩のしかたである。現在までに見学した先きは、新聞社、放送局、赤坂離宮、森永製菓工場、石けん工場、羽田空港などで、次の週になると、グループ会をひらき、見学の思ひ出や、見学先きの知識ひろうに花がさく。また、ご主人が苦勞して働いている当の製鉄所の内容もしらねばならないと、目下製鉄所見学を継続中である。なにしろ、この計画を発表すると、ほとんど全対象世帯主婦（五千名以上）が希望して

きたので、何十回にも分けて日取りをきめなければならぬ。かくして、えんえん半年間にわたるわりふりにより、順番をつくるしまつである。見学した主婦たちは、ご主人の仕事がなまやさしいものでないことを痛感する。「おかげで、女房のサーヴィスがよくなつたよ」と、従業員たちにも好評である。

### 運動は第三段階の発展へ

第二年度において、指導員を二〇名に増員し、対象世帯を川崎市内五、三六六世帯全部に拡大し、地区からの反響もつよく、事務処理にもなれて、自信をえてきた事務局は、昭和三十年度の第三段階には、とくに生活設計に重点をおくこととした。

指導員が巡回指導をして歩くうちに、生活上のことその他、いろいろの相談をうけるようになった。しかし、健康上の問題ならとにかくとして、家事・経済・法律などの問題になると、指導員としても事務局としても、その相談相手になることには、常識のこと以外には、おのずから限界があつた。

これらの事情から——これこそ新生活運動の自然的発展であるのだが——これらの相談の

専門的機関をもつことにし、同年三月に法律相談を、五月には身上相談をはじめることにした。この二つをふくめて生活相談所と名づけている。

### 生活相談所

前に述べたように、この相談所は、家庭巡回をすすめてゆくうちに、自然的、必然的にできたものである。それ故、この相談所の存在は各家庭に徹底している。開店休業のかたちとならないのは、この組織が完備しているからである。

そして、この相談所担当者として、人口問題研究会の永井理事長のあつせんにより、法律問題に女性弁護士久米愛氏を、身上相談に新聞の相談欄に経験の深い山本杉、山室民子両氏を依頼した。

#### 相談の実施日

法律相談第二、第四週の水曜日、午後一時より四時まで。

身上相談第二、第四週の月曜日と、第三週の土曜日、午後一時より四時まで、  
申し込みの方法

あらかじめ相談所に来所し、相談のケースの概要を話して、申し込む。止むを得ぬ場合に

は、通信により申し込む。または指導員が巡回中、悩みをもっている人を発見すればそのつど申し込みをすすめている。

### 解答の方法

面接日を通して、本人と直接面談のうえ解答する。止むを得ぬ場合は、通信によつても解答する。以上のほか、急を要する場合は、本人の希望に応じ、直接担当の先生に連絡し、本人が先生の方に出向いて相談することもできるようになってゐる。

相談をうけたいろいろのケース

昭和三十年五月より三十一年十月までの一年半に、とりあつかつたケースの数は、

	件数	解決数	接触数(同一の事件に何回も相談するのべ人数)
法律相談	二四八	一四七	三五四
身上相談	一五五	九五	三七七

その主な内容は次のようなものである。

◇法律相談では……

土地家屋賃借あるいは売買の問題。全銭賃借および保証人の問題。遺産相続問題。離婚の

問題。親の扶養の問題など。

◇身上相談では……

夫の女性関係の問題。子供の素行の問題。飲酒、競輪の問題。子供のしつけの問題。恋愛問題。縁談の問題。妻の性格異常の問題。金融あつせんの問題。家族の就職問題など。

以上のような人生の裏面も、相談担当者の努力により、六〇%は完全に解決し、のこりの四〇%もよい方向にすすんでいる。

この相談について法律担当の久米氏は、「この相談を担当して痛切に感ずることは、一般の人たちが、いかに法律知識に乏しいかということ。そのために、事を決めるにあたって、当然ふむべき簡単な手続きさえもおこたつて、あとになつてホゾをかむ思ひをする——のんきというか、ウカツというか、はがゆいような場合が多いのです。」と語つてゐるし、また、身上相談担当の一人山本氏は、「当所だけの場合にかぎらず、相談の時期のおくれることが、いつも問題を深刻にし、複雑にしている。主婦が一家をきりまわし、支えてゆくのだという誇りと、計画性のうえに立つて、ご主人とともに円満な家庭生活をきずき、問題の発生を未然に防ぐ努力をおこたらぬ一方、それでも悩みの起つた場合は、それが大きいシコ

リとならないうちに摘みとれるよう、できるだけ早いうちに相談にくることをおすすめします。」と述べ、法律相談にしても身上相談にしても、事前の心がけと、早期の相談解決の必要を、口をそろえて指摘している。

これらの経験から事務局では、相談所の活用を積極的に進める一方、あわせて、各地区グループの育成向上をしつつ、直接地域においていつて生活一般の相談を専門に担当する『生活相談員』をおくことにした。つまり、相談所にくる前に、悩みのタネの小さいうちに、未然に防ごうというわけである。

### 生活相談員の配置

以上のべた如く、家族計画保健衛生育児に関する問題などを専門的に指導する『指導員』は、それはそれとして、巡回をつづけると同時に、新しく『相談員』を配置して、いままでは指導員の築いた地盤に入りこみ、主婦たちの設計のもろもろの面について相談をうけ、助言をするわけである。従つて、いままでの指導員とも密接な連絡をとり、まず各家庭の主婦たちと親しくなることを第一目標にして活動をはじめている。

まず、三十年秋ケース・ワークに経験のある二名の女子相談員を採用したが、五千名の世

帯を相談するには忙がしすぎるため、翌三十一年春、東京都社会生活学校を卒業し、人口問題研究会の生活相談員養成講習会を受講した二名の女性助手を追加、二人を一組として、川崎市を二分し、担当を分けている。

### 相談員の任務

#### (1) 相談所における勤務

相談所の担当の先生は、月に毎回かの相談担当で、それ以外の日を訪問する従業員及び主婦にとつて不便である。これを受付窓口を毎日ひらいて、相談員が予備面接をして、親切に悩みを聞き、自身で処置できる程度の小さい事件ならその日のうちに解決し、重大問題ならば担当者と連絡し、再度訪問のまえに事情を伝えておけば、能率も上るし、喜ばれもするわけである。

#### (2) グループ活動の育成

すでに家族計画指導員がグループを組織し、グループ会を指導しているが、この気運をのがさず、家計簿の記入、生活の合理化、子女の教育など、より建設的な方向に進めることが必要である。



まず委員会、グループ会に指導員とともに出席し、相談所の紹介をし、保証人を氣がるに引受けたため、ぬきさしならぬ立場におち入った例とか、主婦の態度がわるいため、子供のシツケをあやまつた例とか、相談ケースの実例をとりあげて、主婦の注意をうながすと同時に、問題のある人は早目に相談にくることをすすめる。

それから、グループ内の問題点およびそのテーマのとりあげ方についても指導をする。たとえば、十月中の活動状況をみただけでも、二〇の委員会、二一のグループ会に出席し、ありとあらゆる種類の話題にぶつかる。そのうちのわずか最初の十項目をあげただけでも、

○毛糸の更生法について

○集会に出にくい嫁の立場

○太陽族の批判

○子供の小遣の額

○有害着色食品について

○家計簿のむずかしさ

○子供の学習をみるには

○ご主人の封建性

○会社直売店の批判

○家族の偏食の心配

など種々雑多である。それで、グループ活動を運営方法の改善と、同時に主婦たちの自主的意欲をもりあげるため、いつも指導員、相談員が司会者、説明者となることをせず、主婦のうちから当番制に議長、記録係を選出して、テーマのまとめ方、発言のリードのしかた、次の会合の宿題などを司どらせることにしている。ある会では、そのまつさきに、いちばん口下手な奥さんがクジ引きで次の週の議長にきまつた。その奥さんは大いに心配し、ご主人に相談したら『自分のことは自分で』と軽くあしらわれた。しかし二晩寝ずに考えた上、やりとげようと決心し、鉛筆をなめなめ、子供の綴り方用紙に当日のあいさつ原稿をつくり、洗濯のあい間にも、掃除の間でも、一生けんめい暗記した。当日は、さすがに少し上り気味であつたが、開会のあいさつから、テーマのとり上げかたに至るまで、つかえることなく議事を進め、大かつさいをあびた。このように発言の訓練もし、建設的な意見も考え、単なる話しあいになることなく、家計簿一つをとつてみても、共同研究を実地にはじめ、グループ活

動が開始される前は、家計簿記入家庭が全体の一五%であつたのが、グループ活動以後には、その二倍以上の三六%になり、ときどきを含めれば約半数の多きに達するようになった。そして、グループ会の最初と最後には、会の勉強の肩コリをほぐすため、『集いのうた』『ママのひとりごと』と題する合唱曲をうたうという、和気あいあいとした状況である。

### (3) 脱落家庭のケース・ワーク

グループ活動をしている地区の家計簿記入の割合

家計簿	調査数	%
つけている	1088	36
時々つけている	440	14
つけていない	1515	50
計	3043	100

家族計画も指導をうけないし、グループにも加わらない家庭が、少数ではあるがまだ存在する。もちろんこの運動は強制すべきものではないが、なにか悩みがあつたり、家庭環境の難しさのために参加できないのならば、これらの家庭を引上げねばならない。これらの家庭を、グループ会の余暇をみては個別に訪問し、トラブルを早期に発見し、解決がむずかしくならぬうちに、相談所またはしかるべき専門機関に送ることに努力している。相談所の設置もこのようにして生きてくるのである。先日、家の中に神経症の家族がいるので、グループ会にも恥かしくてでられ

ず、個別指導にも門をとぎして受入れなかつたある主婦が、相談員の親切的な訪問にほだされて、事情をうちあげ、すぐ専門病院と連絡をとつてもらい、幸い、半月間の治療ですつかり治療できた例がある。相談員に対する礼状に、次の如き一節がある。『……わたしはいまは孤独ではありません。大ぜいの友だちに囲まれています。いまから考えると、なぜあんなに人を避けたのか不思議です。人に相談し、人の忠告をうけることの尊さを、これほど感じたことはありません……』と。

X

X

X

事務局は、この新生活運動を十年仕事と考えている。まだはじまつてから現在（昭和三十二年春）までにわずか四年である。昭和三十一年春には、第四年度計画として、生活設計をより立ててゆくとともに、家族計画の方も、川崎市内のみならず、京浜地区より電車で通勤する三、〇〇〇世帯にも手をのぼし、通信上の質問に応じたり、器具、薬品を郵送したり、また求められる場合には、はるばる『往診』におもむいて、着々仲間をつくつていく。会社にたがねてきて、教えを乞う人たちには、新しく指導室を準備中である。ゆくゆくは新婚夫婦、婚約男女が、相たさえて明るい顔でここを訪れるようになるだろう。

労務部長のKさん（現在本社に転任）の夢は少しづつ実現している。昭和二十八、二十九、三〇年に、産業事故発生数は、それぞれ二、〇一七、一、四〇〇、一、二〇五と減少をつづけている。新生活運動はこの川崎製鉄所のみならず、同じ鋼管傘下の、新潟、富山、鶴見各製

鉄所、および鶴見、清水各造船所にひろがりつつある。

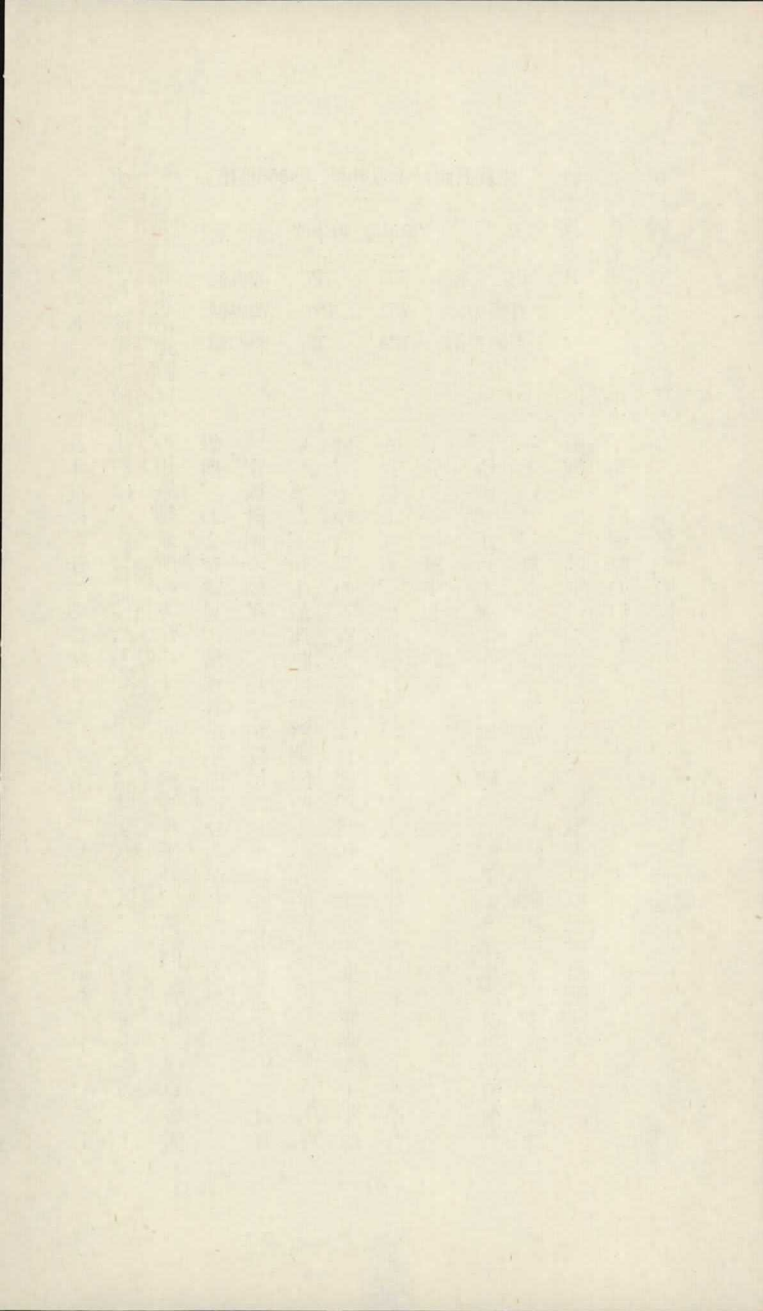
家族計画の効果は、わずか数年にしてはつきりするものではない。また、新生活運動は受胎調節のみが目的ではない。しかし一応、その効果のみを上に掲げれば、昭和二十九年と昭和三十年を比較しても、出産数は約半分に、人工妊娠中絶はおどろくなかれ五分の一に減少している。

家族計画による効果（5366世帯）

	29年度	30年度	割合
出産	605	317	47%減
妊娠中絶	751	152	79%減
不妊手術	124	19	85%減

画普及大会には、全国で職域としては唯一つえらばれて、厚生大臣の表彰を受けた。妊婦ノイローゼはかくの如く解消し、そのうえ生活改善の意気こみという、無形文化財まで加わってきた。昭和三十一年秋の家族計

画普及大会には、全国で職域としては唯一つえらばれて、厚生大臣の表彰を受けた。今日も地区のどこかで、新生活運動の灯がもえつづけている。グループの明るい歌声により、個人宅でまじめにうなづく主婦の瞳により……。



# 〔附録〕企業体における新生活運動実施の手引

財団法人・人口問題研究会

## Ⅰ 基本理念の確立

人口問題は生活問題であり、国民の日常生活に直接つながっている。国民の日常生活を刷新し、その向上を図り、そこに現実的基礎を強く据えなければ、人口問題の解決は難しく、まして直に民主的な福祉国家の実現及び国家緊急の経済自立は到底望み難い。そのためにはあらゆる職場、地域にわたり、近代的な道徳的、合理的、計画的の日常生活を実現するよう、現状に則して具体的な一大運動が展開されねばならない。言葉を換えれば、新生活運動は単なる生活改善運動に終始せず、一つ一つの家庭生活における生活の充足プラス人間の完成より出発し、人口問題の解決、進んで新日本の建設に直接寄与する運動であるとの理想を持つべきである。

財団法人人口問題研究会は、その部内に新生活指導委員会を設置し、学識経験者を集め

て、人口対策の見地から生活指導に関する諸般の事項を審議検討し、その実践課題について、本年五月大綱左の如き方針を決議している。

一、趣 旨

(一) 新日本の建設に直接寄与する運動であること

(二) 人口問題の解決に資する運動であること

二、課 題

(一) 家族計画

1、家族計画理念の普及

2、受胎調節の普及と墮胎（人口妊娠中絶）の防止

(二) 生活設計

1、予算生活の普及

2、生活合理化の促進

3、貯蓄の増強

(三) 健康家庭の建設



1、家庭衛生の向上

2、乳幼児の科学的保育

(四) 家庭秩序の再建

1、新しい家庭道德の樹立

2、青少年の不良化防止

(五) 社会道德の振興

1、職場道德、交通道德、公衆道德の高揚

2、責任協力態勢の確立

そのため、特に重点を国民経済の中核体たる企業体の新生活運動の指導におき、毎年企業体の指導幹部に対するこの運動の基礎理念・指導要領に関する講習会（企業体新生活指導幹部講習会）を開き、在来の厚生労務管理方式について再検討を行い、家庭と職場を一元化した管理方式——企業体家族の生活水準の向上及びその家族成員の資質の向上より出発して、生産性の高揚と産業安全の基礎を養い、家庭から職場へ、職場から社会全般におし広める運動を推進しつつある。

## II 運動の推進方策

### A 指導方針の設定

新生活運動は、衣食住の技術的改善のみを主眼とし、或は家族計画だけで能事終れりとするものでないことは前章で示した通りである。それ故同じく前章で紹介した実践課題五項目は是非共網羅せねばならない。

ただ、それにしてもこの全項目を同時に出發させることは、甚だ困難であるばかりでなく、時としては重点が散漫に流れるという逆効果も生れかねない。それで先ず第一段階としては、家族計画或は生活設計より出發し、家庭の合理的再建の基礎を造るべきである。家族計画と生活設計はどちらを先にすべきか或は同時に出發すべきかは、もちろん各企業体の立場なり、特殊性なりに従うべきで、或る場合は第三の健康家庭の建設を先に推し進めても一向差支えない。要は基礎理念さえ確立し、その背景を考えつつ一歩々々運動をはこべばいいのである。今までの経験から云えば、家族計画を出發点として入つた方が、労働組合に対しても各家庭に対してもスムーズに受入れられ易い。家族計画で家庭の合理的再建が出来れば、自然に向上意欲が生れ、次の段階に着手し得る。

又、同じ企業体の中でも、或る事業所地区は年令集団を考慮して、家族計画指導を主体とし、或る事業所地区は立地条件その他を考え健康管理に重点をおく等のバラエティを持たしても一向差支えはない。

指導対象区域の設定については、初め一工場の、それも集団社宅地区を小規模にモデル・ケースとして組織し、逐次問題を拾い、運営技術を反省改善しながら、半期毎でも一年毎でもその規模を拡大し全社に及ぼす方法と、全社各工場一斉に出発し、本社がその統一調整の任にあたる方法と二通りある。後者の場合は、早くこの運動が大規模に発展し、且つ各工場のいい意味の競争意識が加わつて効果をもたらすという利点はそれとして捨て難いが、念を入れてテストする意味においては前者の逐次拡大方式が望ましい。

出発方針と対象が定まつたら、『実施要領』と『実施項目』を設定すべきである。単なる家族計画運動に終らせないことを心に銘ずるためにも、又対象家庭に前途の希望を持たせるためにも、この具体的実施項目は、ただのスローガン以上に価値がある。この設定にあつては出来る限り、一部の家庭に簡単なアンケートを回して、希望を調査することが望ましい。この運動はあくまでも各家庭、殊にその主婦の自主的運営にまかせられるべきものであ

つて、又これなくしてこの運動の成果は期待されぬといつて過言でない。発足当初は企業体の強力な援助、或は庇護の下に推進されることは止むを得ぬことであり、又ある程度必要であるが、決して押しつけることなく、独善を排し、次第に自主的活動に移行する性質のものである。すなわち家庭生活の画一化を計るものではなく、各家庭の実情にそつた合理的計画的な生活のあり方を各人が発見し、そして実行出来る様に援助すべきであり、実施項目もこの線にそつて設定する必要がある。なおこの希望調査はこの運動実施について上司に意見を具申する際の強力な援護射撃となるべき参考資料としての価値も併せ持つている。

## B 実施のための企画

この運動が実施發展されるためには、企業体の性格上、上層幹部の理解がなくては不可能に近い。それには、文書による計画書提出だけで事をはこぶより、人口問題研究会側の出席を得て、説明会を開くのが最も効果的である。この際特別に会合を開くことが困難ならば、定例部課長会議の時間を一部削ぐ方式でも差支えない。こうして直接に上層部がその問題点を認識すれば、実施上大きなプラスとなる。又、同時に労働組合幹部と事務当局と人口問題研究会との三者懇談会を開くことが望ましい。労働組合はとかくこの運動を会社の賃金値上

げ防止策乃至扶養手当削減策、或は組合組織切くずし策と誤解し勝ちである。この席でこの運動の根本理念及び具体的効用について説明すれば必ず納得させ得る。又、この懇談会を経てこそ後々の問題を少くする所以でもある。

次に手持ちの統計を利用して、或は必要に応じては既存書類から改めて集計し直して、参考資料を整備すべきである。これは稟議の附帯資料としての必要性ばかりでなく、予算作成上、又何年か後の運動効果の推定上、不可欠であることは論を俟たない。資料整備の最少限度を簡単に挙げれば、年次別各事業所別出生数・人工妊娠中絶数、不妊手術数、婚姻数、扶養家族数、罹病件数、欠勤日数、災害件数等である。

更に、既にこの新生活運動に着手し実行中の企業体の視察見学をすれば、企画立案に非常な参考となる。(この実施企業体一覧表は手引きの末尾に付けてあるから御参照を乞う。)そこで実施上特に注意を要すべき点、今迄の成果、必要な中務的処理法等について説明が得られる。なおこの見学については人口問題研究会がそのあつせんの労をとつている。

### C 予算の編成

この運動は企業体が大部分の経費を支出し、この経費で賄うのであるから、特別予算を計

上しておいた方がよいことは云うまでもない。しかしこの運動に必要な経費は一体どの位かということを一に割出すことはむずかしい。蓋し、対象世帯数、実施項目の種類等により当然変動するものであるし、又例えば指導用品或は講座費用等の企業体負担割合によつても全予算に対するはね返りが異なるからである。しかし極めて大略に見て、家族計画対象家庭一世帯当り実施初年度において年額五〇〇円から一、〇〇〇円までの予算はどうしても見積る必要があるが、その後は実地指導員等の人件費が主で予算は軽減する見込である。

今日本鋼管を例にとつて、従業員規模別に概算すると一世帯当り経費（家族計画以外の経費を含む）次の通りになる。

従業員数	年度	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度
一万五千		一八〇〇	八〇〇	七五〇	三五〇
一万		二二五〇	一〇〇〇	八五〇	六三〇
五千		三六〇〇	一六〇〇	一五〇〇	七〇〇
		円			

すなわち規模が小さいと、どうしても一世帯当りの費用が割高になり、又最初の二―三年はこの運動のために設備しなければならぬ用具費その他が、経常費とは別に必要となる

し、又啓発普及期間はある程度の呼び水が要るわけであるが、第三年目乃至第四年目からは指導の卒業、出産減少、各種講座の自主的運営等が重つて、会社負担経費は自然に通減して来る様になる。現在この運動を実施している企業体の予算は小は三〇万より大は一千万まで種々あるが、問題は予算額の多寡にあるのではなく、社内事情、対象の大小、内容の軽重、年度の相違等が相乗されたものであることが納得して戴けるであらう。

次に同じく日本鋼管の例をとつて初年度予算項目別の比率を示せば次の通りである。

項 目	比 率	項 目	比 率
1、指導員養成費	二%	7、行事費	二〇%
2、指導用品費	二	8、会場費	四
3、啓発宣伝費	九	9、調査研究費	三
4、指導員人件費	二八	10、雑費	二
5、指導用消耗品費	一	11、一般教養費	一三
6、交通費	二	12、生活改善費	一四

この表の比率は運動開始当初のものであるから、(1)―(3)までの如く、準備費が含まれてゐる。(4)(5)(6)は家族計画に必要な直接経費であり全体の約三分の一を占める。(11)(12)は主として生活設計の費用で、次年度から生活相談所経費及び生活指導員人件費が加わつて比率が大き

くなつて来る。(7)―(10)は家族計画及び生活設計双方にかかる間接経費である。ごく大ざつぱに見て、初年度は家族計画対生活設計の割合がほぼ六対四になり、次年度以降はその割合が生活方面へ重心が移る様になることが窺われよう。更に二、三年たてば行事費、会場費の類は主婦の自主的活動と相俟つて、受益者負担が行われ、前述の如き予算遞減傾向が生じて来るのである。

#### D 実施のための組織

運動の開始に當つては、従業員個人ばかりでなく、従業員の家庭にこの運動の主旨を周知徹底させ、期待を持たせなくてはならない。そのためには準備期間中から、社報家庭版の創設、各種の通知、パンフレットの配布等に力を注ぐ必要がある。そしてその内容は勉めて平易な表現をとらなくてはならない。

地区別の主婦の組織化はこの運動の最大の眼目の一つである。この組織が確立しているといないとは、運動展開に非常な相違を来す。組織が完全に出来れば、運動の半分は成功したと云つても過言ではない。

それには先ず、対象区域で（A 前述した如く、集団社宅地区の組織化より、適時地区を拡



大する方式が普通である) について、区域別家庭名簿、家族成員表、居住分布図を作成し、対象世帯を番地によらず實際の見地から、いくつかのグループにまとめて系統図を作る必要がある。グループのまとめ方は五乃至十五世帯につき一名の割合で主婦の世話役を選出し、事務局及び指導員の連絡、運営の補助、グループ家庭の統轄等を受持つて貰うのであるが、この選出に先立つてグループ別の懇談会を開き、この運動について忌憚のない意見を交換する機会を与え、主婦の積極的參加意欲を培養することが望ましい。そのため必要とあらば担当者が自ら随時この会合に出席し説明する熱意が肝要である。又中年を過ぎているとか、不妊だからといつてグループから仲間外れにしてはならない。蓋しこの運動は家族計画のみで終るものではなく、家族計画はその第一歩に過ぎないからである。なお世話役や選出は全く主婦の自由意志にまかすべきものであるが、当初はこの運動を十分に理解し協力を惜しまぬいわゆるいい意味の世話やきに依頼し、漸次投票なり互選なりに移行するのが便宜である。世話役の協力程度により運動展開は想像以上に影響を受ける。一片の通知による指名、或は職制上の身分に基く推薦は絶対に避くべきである。世話役の任期は半年乃至一年とし重任は妨げない。一月制の短期当番交替は望ましくない。なお世話役に対しては任期の終りに主婦

向きの実用品を贈りその労をねぎらうのが普通である。

企業体内の運営系統には専門の事務局の設立が望ましい。事務局は出来れば厚生課が担当すべきである。労務課に置けば家庭までも強制管理されるといふ誤解の気分を招きがちであるし、保健、衛生課関係では専門的に流れて実施項目全般を蔽うに不便である。しかし各社の構成、事情に応じて決定すべきもので、絶対的なものではない。なお、事務局を置く担当課のほか、関係課及び附属病院又は診療所と協力連絡を保つ必要性はもちろんのこと、健康保険組合との提携も大に役立つ。

事務局が決つたら、運営委員会の設置が必要である。この運動は企業が予算を出し、実施するものとはいへ、業務命令を出すべき種類のものではない。従業員の主婦及び労働組合の積極的協力が肝要なることは当然である。それでこの運動の最高立法機関として、『運営委員会』の如きものを設け、年に数回集つて指導運営の大綱を決し、その具体的実施を事務局に委せることにすれば、納得づくの推進が出来、効果も生れる。この委員会の構成は、社長又は担当部長を委員長とし、労働組合幹部、主婦代表、事務局員等を委員としその他、関係各課、附属病院の代表を加えることが通例である。

## E 指導員の準備

これまでの運動は、講演会、映写会等の開催、或はパンフレット・ポスターの配布等のみに依存していたため、観念的には運動の趣旨が理解出来ても、具体性実行性に欠ける憾みがあつた。この運動を徹底させるにはどうしてもケース・ワークを担当する指導員の存在が絶対要件である。しかもこの運動を直接指導する指導員の人格力量は効果を左右すること甚だ大である。従つて指導員の養成、選衡には最も慎重を期さねばならない。

指導員には二種ある。その一は家族計画指導員である。これは助産婦の資格を持ち、且つ優生保護法に基く厚生省の認定講習を受け、都道府県知事の免許を受けたものでなければ指導出来ない。この様な資格を持つ婦人は全国に約三万名いるが、ただ資格があり技術を身につけているからといつて、役に立つものではない。後述の如き集団指導の技術、個別指導のコツを会得するためには、企業体向けの再教育が望ましい。人口問題研究会では各社の要望に応じ、現在までに四回この再教育講習会を開き、適格者をあつせんしている。

その二は生活指導員である。この運動の進展によつて、家族計画と併せて、生活設計指導のための指導員を採用する必要が生じて来る。生活相談所又は相談室の受付として予備面接

をして担当講師との連絡をすること、家族計画指導員のバトンを引継いで主婦組織の中に進出し、グループ活動を盛立てつつ家計簿の記入、生活合理化、子女教育等の指導に当ること、及びグループより脱落する家庭を個別に訪問調査してその悩みを聞き、然るべき相談機関に連絡すること、以上の三つの仕事を受持つわけである。人口問題研究会では、今年春より都立社会生活学校で所定の教育実習を修了し、社会福祉主事の資格を持つ生活指導員の養成講習会を開き、各社の推薦依頼に応じている。

家族計画指導員の待遇は、もちろん各社の実情に応じて条件をきめるべき筋合いのものであるが、一応基準として手取り日当五〇〇〇円（交通費別途支給、夏季手当、年末手当は別に各社により予算編成）の線を定めている。対象家庭数に応じ、必ずしも専属常勤の形とは限らず、一カ月十五日出勤程度が通例である。この場合月に十五日分の手当を支給すればよい。身分も嘱託の形で差支えない。生活指導員は企業体により常勤、非常勤、正式採用、臨時雇用等事情が一定していないが日給なら五〇〇〇円、月給なら一万二―三〇〇〇円程度である。指導員一名当りの受持世帯数は、居住密度・分布により一概には云えないが、家族計画の場合は二〇〇乃至四〇〇軒、平均三〇〇世帯を一ブロックとした主婦組織を編成し、これを

一つづつ、受持たせるわけである。たとえば三〇〇世帯を月十五日出勤（月水金の如く一日おきに仕事をし、共稼ぎ家庭の日曜指導や、家庭の要望によつては夜間訪問もある）の場合は、個別指導には一日五六世帯廻れるから、同じ家庭を年に数回づつ巡回出来るわけである。生活設計指導の場合はグループ指導が主となるから五〇〇世帯以上一、〇〇〇世帯程度まで受持つことが出来る。

指導員は従業員家庭を訪問し、特殊な指導をするのであるから、万一にも指導を受ける如き行為があつた場合、この運動の推進に重大な支障を来す。そのため採用時の養成選衡は前述の如く重要なことは勿論であるが、その他実際活動段階にあたつても、服務規程を作成してその統制をとり、業務日誌・業務月報を記入させ、或は器具・薬品の入金台帳を備えて、指示、統轄するのが便利である。特に最初の中は、巡回指導の趣旨が各家庭に周知徹底せず、一般の外交員と間違われる例もあるから、写真添付の身分証明書を発行し、器具薬品取次価格表を印刷携帯させる様に指示すべきである。

#### F 指導用具の準備

家族計画指導には、避妊器具薬品の購入が必要である。これは一流メーカーと直接契約す

れば優秀品が廉価に入手出来る。これを指導員が常時携行し、各家庭の事情や希望に応じた品目を、自宅でしかも廉価に受渡しするので、外部に買いに行く手間もいらず、一對一の個人的入手であるから羞恥心もとけ、普及効果を著るしく高める所以となる。同一家庭を年に数回巡回する必要性もこの補充にある。器具薬品の取次価格は、予算に応じ無料会社或は健保の一部負担・実費の各種が考えられるが、実費或は端値切捨ての場合が通例である。各家庭とも指導員がその都度現金で取次ぐのが便利で、それを指導員が毎月末に台帳で事務局に入金決済するのが確實である。

家族計画指導員はこの避妊器具薬品を何回分か常時携行するほか、実施指導のため、婦人腰部模型・指導掛図・指導スライド・実物見本、更に白衣・消毒用具・テストリング・ゴム手袋・手洗刷毛・ガーゼ・タオル・石鹼等の細々した一式を携帯しなければならない。そのためには大型のポストンバックを購入し、諸用具をつめ合せて運べば便利である。これらの実物や模型・スライドによる視覚教育、衛生的な外観準備等は、具体的教育効果・心理的安心感を生み出す方法の一つである。主婦の中には中年過ぎで受胎調節法の必要のないものや反対に子供が欲しい不妊の人もいる。これらの人達を仲間はずれにせず、欣然とこの運動に

参加させるためには例えば子宮癌の知識とか妊娠生理とかのスライドを余分に備え、指導内容を多角的にし、更に進んでは哺乳の問題点、乳幼児疾患の予防等のテーマを取上げれば、歓迎されることになる。

次に各家庭に対する家族計画基礎調査票の印刷準備が必要である。既に(Ⅱ章のB)社内の参考資料の整備については述べているが、この資料はあくまで一般的のもので、特に対象区域の家族計画の実行率、各家庭の出産歴、特に人工妊娠中絶の実態などはつかみにくい。この運動発足と同時に、後述の発会式と前後して、世話役組織を活用し、基礎調査票を各家庭に配布して、指導直前の数字をつかんでおけば、半年或は一年後の指導による推移と比較対照して、はつきりした効果が説明出来る。又、調査票それ自身を各家庭が書くことの教育——自らの態度を見直し、或は運動がいよいよ始まるぞとの認識を持つ——の意義もあり、この調査の回収率(配布世帯一〇〇)に対し何世帯が協力して調査票を返して呉れたか)及び有効率(返つて来た票一〇〇)に対し何枚がまじめに記入してあるか)の計算のみでも、各家庭の意識なり反応なりの推察が出来る。この調査の企画及び内容の作成は、人口問題研究会が応援指導しているが、概略を述べれば、夫婦の年令、結婚年月、職種、住宅状況、現在ま

ての妊娠（現存、死亡、自然死流産、人工妊娠中絶）状態、受胎調節実行の有無、実行者の実行方法及び効果、不実行者の不実行理由等である。なお、この調査実施の段階は、未だ運動発足の項で、指導内容について危惧を懐いている家庭が多いことが普通であるから、指導方針の重点をどこにおけばいいかを見るための調査であり、各個人の秘密を侵す意図はなく、専ら全体としての統計数字をつかむ目的であるという調査趣意書を添附して配布し、誤解を避ける工夫をこらし、記入、回収にあつては、無記名式且つ封筒に入れて提出させるなどの心づかい、及び集計の際事務局に知られるとの心配を一掃するため個人票の取扱いは外部（希望があれば人口問題研究会が委託を受ける）に託し、全体の数字のみを事務局がつかむとの説明が必要である。又生活指導の際は、改めてこのための基礎調査が必要である。

更に家族計画指導員がその都度携行し、指導員が保管すべき『指導票』（カルテ）の印刷準備が望ましい。指導員は受持ち家庭につき一枚づつこれを用意し、各家庭の事情、個別指導の方法、取次いだ器具薬品の入金、指導の経過、訪問の日附等のメモを随時書込み、事務局からの指示に応じて、各種統計報告の台帳として役立てるわけである。このカルテの内容型式等の細目は省略するが、人口問題研究会に見本が用意してあるから、問合わされたい。



### III 運動の実施経過

#### A 発会式の設営

II章で述べた各種の準備が終つていよいよ発足となる。この発足にあつて、ことさらに発会式という形式なり祭典なりをする必要はないという議論もあろうが、今迄の例を見れば発会式の有無により、この運動発展の難易に著るしい開きがある。発会式の必要性は先ず第一にこの運動に対する『ふんぎり』をつけ意欲を新にさせることである。特に世話役の主婦については、この席上で御願いする形式をとれば覚悟を新にする。第二に事務当局より、組織・系統・機構・連絡法・あつせんの内容、今後の抱負等を直接に説明することにより、印刷物説明に数倍する効果が挙る。発会式の対象には従業員の集合をもとめるものと主婦を招くものと二種あるが、殊に後者の設営は不可欠である。これも場所によつては世設役主婦のみも止むを得ないが、成るべくならば一般主婦全部を案内した方が望ましい。発会式は対象家庭全域を同一期日にまとめる必要はなく、ブロック毎に分けることも差支えない。又この席上基礎調査の趣意説明の機会を得るのが便宜である。なおこの式の際、人口問題研究会側の講演を設けることが望ましく、その他教育映画の上映等の余興を附すのが親切である。

## B 家族計画指導の推進

発会式の後、旬日をおかず、家族計画の実際指導に乗出すのが得策である。指導方法は指導員自身が再教育講習の際十分体得しているので、詳細に述べる必要はないが、大略は次の如きものである。

第一段階、受持区域の世話役と懇談しスケジュールを定め、事務局と連絡の上、小単位ごとに基礎教育（集団指導）を行う。すなわち、住宅の集会所或は世話役、有志の家の一間を提供して貰つて、前述の五―十五名程度の小単位毎に指導員が新生活運動の意義、家族計画の必要性を簡単に述べ、掛図、スライドを用いて女性生理の解説をし、更に模型、見本により受胎調節法の一般的紹介を行い、質疑応答により締めくくりをつける。第一回目は簡略に、しかも肩のこらない様運営するのが肝要で、時間も午前十時とか午後二時とか、主婦に余裕のある時間に設営するのがよい。説明の分量は主婦の希望により数回に分けることも差支えない。

第二段階。集団指導の終つた各家庭を、一軒一軒訪問して個人指導をする。それぞれの実行経験、年令、出産歴、家庭事情に応じ最も適した器具薬品を選び、取次ぎ、入金の上、具

体的に指導練習をさせ、併せて妊娠・出産・哺育についての個別相談を受ける。カルテはこの個別訪問の際記入する。なお第一段階のみを全区域に亘り一通行い、改めて第二段階を丹念にやる方法と、各小単位毎に第一と第二を続けて、次の単位に移る方法と二通行あるが、区域の状況、世話役の希望等に応じ適宜に処置すればよい。

第三段階。第二段階の家庭訪問巡回を繰返し、実行の点検・改正・再指導・及び不実行者の反覆勧誘、器具薬品の適時補充を継続する。この段階に集団指導に参加出来なかつた人のための基礎教育、有職主婦のための夜間、日曜指導、不妊症その他の発見及び専門機関への連絡あつせんを行う。

第四段階。一通行第三段階までの指導が終つたら、改めて集団教育にもどり、座談会を開いて、活動の批判、調整を行い、指導の結果を確認し、更に一般座談会、世設役会を定期的に開く様に努力して、グループ指導の充実、向上を期する。つまり四〇代グループ。三〇代グループ。二〇代グループの融和を計つて次の生活設計へ発展する態勢を整えるという生れが必要である。会合を重ねるにつれ後述の生活設計に対する協力の体制と意欲の上昇がことて来るわけである。

指導員は以上のケースワーク業務の他、臨時事務局と連絡して、日程の打合せ、日誌、月報の提出、器具薬品の決済補充、各種調査の配布補助、及び後に述べる講座や会合の通知連絡の任にあたる。又主婦達の希望や意見を事務局側に取次ぐ窓口ともなる。

この運動が発展して行くと、色々な意味の障害や問題点が生じて来る。そのため、一月或は二月に一回の程度に、事務局が主催して指導研究会を催し、指導員を激励指示しなければならない。つまり、指導員を集め、人口問題研究会側や附属病院側の専門家を招き、指導員相互の討論批判を基礎に今後の指導法を整備教育し、併せて一層の特殊知識を伝授するのである。指導員数の少い企業体では少数の指導員のために殊更この会を開くことは容易でない。その場合は人口問題研究会が仲に入つて、近接他社の研究会に参加出来るようあつせんしている。ケースワークは甚だ地味で忍耐のいる仕事である。指導員の意気消沈及び脱落を防ぐにはこの指導研究会は甚だ効果がある。

### C 生活設計指導の推進

家族計画を基礎とする組織活動が発展すれば、指導員も主婦相互も親密の度を加え、協力してもつと建設的な運動をしようという、意欲が出てくる。この意識の方向を助長して生活

設計を指導せねばならない。後述の第一段階までは、家族計画指導員がそのグループ指導の延長として併せ指導することは已むを得ないが、第二段階以後の専門活動はⅡ章のEに述べた生活指導員にバトンを渡すべきである。

第一段階。座談会における希望動向を察知して、事務局と連絡をとり、各種の講習、講座を設ける。例えば、買えば高くつくが自分で作れば僅かの実費で出来るビニール編、有合せの材料で出来る家庭着や更生衣料を利用しての子供着の洋裁、短時間で安く出来しかも栄養のある家庭料理等の講習あつせんが親切でもあり喜ばれもする。冬季を控えて手遅れにならない時期を選んでのふとん綿入講習が一番評判がよかつたのも、手近な問題をとらえた好例である。講座も一番直接的に主婦の立場に訴える、子女のしつけ、季節の伝染病の知識等が望ましい。これらは指導員がその希望を事務局に連絡し、事務局が会場及び講師をあつせんし、講師謝礼金だけ会社側が負担すれば、材料費、会場費等は主婦が出し合うのが通常の形である。なお機会を見て、子女の不良化防止及び主婦の教養の立場から、映画・スライド・紙芝居の巡回を計画すれば、子供同士、親同士の近親感にも、親の児童心理に対する知識にも役立つ。

第二段階。生活指導員が主体となり、グループ活動を活発に盛立て、生活設計の指導にあたる。この際、社内に従業員家庭に対する貯蓄組合の設立、及び同一様式の家計簿を配布して技術指導にあたることが望ましい。又家庭の中の問題について、悩み抜いた揚句、最後の線まで追いこまれるケースが意外に多いのに鑑み、これら家庭のトラブルを早期に発見し、解決に困難が重ならない中に、生活相談所又は相談室の専門家に送り込むことに努力しなければならぬ。生活相談所又は相談室の設置もこの様にして生きて来る。

## VI 運動経過の報告

この運動は半年一年で効果を挙げ終了するものではないが、定期的にその経過をまとめて効果を検討し、反省の材料或は上層部への報告とし、更に今後の運動改善に資することは必要である。それ故年々、Ⅱ章のBに述べた一般資料の比較、及びⅢ章のEに述べた基礎調査と一年後の指導員カルテによる報告との対照を行わなければならない。

この運動の効果は、勤務面においては、従業員の人間関係の調整、遅刻、欠勤の減少、災害、疾病の減少による生産能率の向上があり、家庭面においては、知識、教養の向上、家計の節約、疾病や不和の減少による生活水準の安定があり、これらのものは精神面と物質面が

かみ合つて、効果の数的把握は技術的に困難であるが、特に家族計画による金銭的效果推定法を参考に挙げよう。

(1) 会社側

$$A \times B \times 18 \times 0.926$$

(注) A……家族手当 一カ年分

B……一カ年間の出産減少数

18……たとえ一人生れたとしても18才迄家族手当を支給せねばならないから  
0.925……生命表による18才迄の生存系数

(2) 健保側

$$C \times D$$

(注) C……分娩手当÷哺育手当 (6カ月分)

(3) 従業員側

$$\{ (5400 - C) + (34,800 - A - D) \} \times 18 \times 0.925 + 875 \times E$$

(注) 5400……総理庁家計費調査による平均出産経費

34,800……厚生省生計費調査による最低平均育児見費一カ年分

(ただし、ここでは0才分を用い、年令増加に伴う育児費増加は考慮しない)

D……所得税の扶養控除による利益 (例えば、月収24,000円扶養家族3人と4人の所得税差は約4,000円)

375……保険点数70点の公定人口妊娠中絶手術料 (妊娠月数による点数増加、「及び合併症費用を含まず」)

なお、これらは、出産減少による会社側、従業員側の健保掛金減少を考慮に入れていない。出産減少分の子供の医療費・死亡費も同断である。

既にこの運動を実施している各企業体、例えば日本鋼管では一年間に出産数は約二分の一人工妊娠中絶数は約五分の一に減少する実績を上げているから、運動開始以前でも、前式のB及びFに前年の出産中絶実数の夫々の二分の一、三分の一等の推定数をあてはめ、A、C Dには夫々各社の手当額を入れれば、予算編成にあたり社内での経理担当者に理解を与えるための材料になるし、労働組合には又会社側と従業員側の受益比率 (日本鋼管の場合は約一対六・七) を示して、従業員側の利益が多く、会社の扶養手当減少政策のみが目的ではないことを納得させる手段にもなる。しかも会社手当の減少により利益は全部本運動又は厚生費



に充当することになっている。

ただしこの計算資料はあくまで便宜上の必要性によるものであり、この運動は単に金銭的に評価さるべきものではないことは論を俟たない。

### V 各企業体の連絡

現在、家族計画を出発点として新生活運動を展開しつつある企業体は二〇社以上に達するが、これらの共同目標達成のため協力連絡体制の推進に努め、後続企業体の便宜を計るため、人口問題研究会を中心に、『新生活運動実施企業体連絡協議会』を設置し、年に一、二回会合を設けている。

参考のため人口問題研究会の指導の下に、この運動を既に実施し又は実施決定済みの企業一覧表は左の通り。(三十一年九月現在。発足順。)

会社名	従業員数	発足時期	実施地域	現在の実施世帯数
日本鋼管	二五、九〇〇	二八年	川崎、鶴見、新潟、富山	一六、〇〇〇
常磐炭礦	一四、九〇〇	二八	福島、茨城	七、〇〇〇
東芝電気	二二、〇〇〇	三〇	府中、川崎、鶴見	三、二〇〇
日本軽金属	三、九〇〇	三〇	清水、菊原	一、一〇〇

日 立 造 船	一 三、 九〇〇	豐 田 自 動 車	五、 二〇〇	日 本 陶 器	三、 一〇〇	本 州 製 紙	四、 五〇〇	富 士 電 機	六、 三〇〇	三 井 鉦 山	四 七、 三〇〇	東 武 鐵 道	一〇、 三〇〇	荏 原 製 作 所	一、 一〇〇	昭 和 電 工	一〇、 三〇〇	日 本 國 有 鐵 道	四 六〇、 〇〇〇	雄 別 炭 礦	六、 四〇〇	日 立 製 作 所	二 六、 七〇〇	日 本 精 工	二、 八〇〇	中 部 電 力	一 七、 八〇〇	日 產 自 動 車	七、 六〇〇	麻 生 鉦 業	四、 〇〇〇	住 友 金 屬 工 業	一〇、 五〇〇	住 友 化 學	一〇、 五〇〇	播 磨 造 船	八、 二〇〇
------------------	----------------	-----------------------	-----------	------------------	-----------	------------------	-----------	------------------	-----------	------------------	----------------	------------------	------------	-----------------------	-----------	------------------	------------	----------------------------	-----------------	------------------	-----------	-----------------------	----------------	------------------	-----------	------------------	----------------	-----------------------	-----------	------------------	-----------	----------------------------	------------	------------------	------------	------------------	-----------

三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

川崎、大阪、因島、向島	拳母、刈谷	名古屋	江戸川、富士	川崎	北海道、九州	東京、埼玉、栃木、群馬	東京、川崎	川崎	全国六地区	北海道	日立、多賀、戸塚	東京、藤沢	名古屋	横浜	飯塚	大阪、吹田	大阪	相生																			
-------------	-------	-----	--------	----	--------	-------------	-------	----	-------	-----	----------	-------	-----	----	----	-------	----	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

八〇〇	二〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇	五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二〇〇	七〇〇	六〇〇	〇〇〇	八〇〇	九〇〇	六〇〇	五〇〇	五〇〇	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定
-----	-----	-------	-------	-----	-------	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

日本通運 八〇、〇〇〇 三一 大阪、名古屋 未定

合計 二四社 従業員数 八〇三、二〇〇名 実施世帯数（未定を除く） 五二、三〇〇

又、この運動を準備中又は一部実施中の企業体は（五十音順）

会社名

従業員数

実施中又は実施予定地域

愛知時計	一、〇〇〇	名古屋
旭化成	一五、八〇〇	延岡
宇部興産	一八、八〇〇	宇部
大阪瓦斯	六、三〇〇	大阪、京都
京阪神急行	六、二〇〇	大阪
京浜急行	三、五〇〇	東京
神戸製鋼	九、二〇〇	神戸、尼ヶ崎
小松製作所	四、五〇〇	小松、川崎
住友石炭	一、八〇〇	北海道
住友金属鉱山	八、五〇〇	北海道
十条製紙	五、〇〇〇	別子
武田薬品工業	五、六〇〇	北海道
電気化学工業	五、六〇〇	大阪
電々公社	一七二、四〇〇	新潟
		東京

東京急行	四、八〇〇	東京
東京瓦斯	六、五〇〇	東京
東洋レコーン	一七、七〇〇	大津
日本碍子	一、〇〇〇	名古屋
古河鋳業	一六、五〇〇	足尾
古河電氣	六、三〇〇	日光
富士製鉄	二二、〇〇〇	室蘭、釜石
三菱金属鋳業	一三、三〇〇	明延、細倉、尾去沢
三菱礦業	三六、〇〇〇	北海道
三菱電氣	一六、七〇〇	名古屋、長崎
八幡製鉄	三六、六〇〇	八幡
合計	二五社	
		従業員数
		四五一、〇〇〇名

このようにして、一部実施中、準備中のものを含めて約五〇社に達している。

家族計画の企業及び実施については以上の各社が資料を整備しているが、家族計画以外の

運動実施状況の問合せについては、次表を参考に掲げる

教養講座、各種講習会開催

全実施企業体

生活相談所又は相談室の開設

日本鋼管、東芝電氣、日産自動車

生活指導員の配置

社報家庭版の配布

日本鋼管、東芝電気、日本軽金属、日立造船、東武鉄道

日本鋼管、常磐炭礦、東芝電気、日立造船、豊田自動車

本州製紙、東武鉄道

家計簿の配布及び指導

日本鋼管、日本軽金属、豊田自動車

貯蓄組合の運営

日本鋼管、豊田自動車

家庭健康診断

国鉄、本州製紙、豊田自動車

授産所の設置

常磐炭礦

企業体における新生活運動の実施は、その特殊な性格上、技術的に困難な点が多い。企画、発足、運営について東京都千代田区霞ヶ関二の一 厚生省内財団法人 人口問題研究会に連絡されれば、協力助言を得られる。

# 職場の新生活運動

版權所有 財団法人 新生活運動協會

昭和三十三年三月一日 印刷  
昭和三十三年三月十日 發行

編集發行人

人口問題研究会

代表 永井 亨

印刷人

富士高速印刷株式會社

發行所

東京都千代田区霞ヶ関 厚生省内

財団法人 人口問題研究会

電話 (59) 四八一六

